茨城県教育財団文化財調査報告第388集

古屋敷遺跡
恩名新三郎遺跡

県道尾崎境線バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成26年3月

茨城県境工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第388集

古屋敷遺跡　恩名新三郎遺跡

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第388集

古屋敷遺跡
恩名新三郎遺跡

県道尾崎境線バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成26年3月

茨城県境工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県は，県土の均衡ある発展を支える基盤として，市町村や県の枠を越え，広域的な交流と連携の骨格となる国道や主要地方道などの幹線道路網の整備を推進しているところです。

その一環として，茨城県境工事事務所は，古河市恩名地区において，県道尾崎境線バイパス事業を計画しました。しかしながら，その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡が所在し，記録保存の措置を講ずる必要があるため，当財団が茨城県境工事事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け，平成24年4月から5月までの2か月間にわたりこれを実施しました。

本書は，古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡の調査成果を収録したもので，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県境工事事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，古河市教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，深く感謝申し上げます。

平成26年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木欣一

例　　言

1　本書は，茨城県境工事事務所の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成24年度に発掘調査を実施した，茨城県古河市恩名字古屋敷1276－2番地ほかに所在する古屋敷遺跡と，茨城県古河市恩名字新三郎1076番地ほかに所在する恩名新三郎遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成24年4月1日～5月31日

整理　平成25年12月1日～平成26年3月31日

3　発掘調査は，調査課長樫村宣行のもと，以下の者が担当した。

首席調査員兼班長　　皆川　修

次 席 調 査 員　　駒澤悦郎

調 査 員（主 任）　　長洲正博

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長原信田正夫のもと，調査員（主任）長洲正博が担当した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，古屋敷遺跡はX＝＋19,080 m，Y＝＋680 m，恩名新三郎遺跡はX＝＋19,560 m，Y＝＋680 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　F－炉跡　FP－炉穴　HG－遺物包含層　P－ピット　SB－掘立柱建物跡　SE－井戸
SI－竪穴建物跡　SK－土坑　TP－陥し穴

遺物　DP－土製品　M－金属製品　Q－石器　TP－拓本記録土器

土層　K－撹乱

※　従来，竪穴住居跡としていた遺構について，平成25年度から竪穴建物跡に名称を変更した。よって，SIは竪穴建物跡とする。

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

施釉　　炉・火床面

柱痕跡

●土器　○土製品　□石器　△金属製品　－－－－ 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　竪穴建物跡の「主軸」は，炉を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　今回の報告分で，調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

古屋敷遺跡　　欠番　SK41・42・51

恩名新三郎遺跡　変更　SK 3→第1号陥し穴　SK 4→第2号陥し穴　　欠番　SK 5・11

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 4
　第１節　位置と地形 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　古屋敷遺跡 …… 9
　第１節　調査の概要 …… 9
　第２節　基本層序 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 10
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 10
　　(1) 竪穴建物跡 …… 10
　　(2) 炉跡 …… 13
　　(3) 土坑 …… 15
　　(4) 遺物包含層 …… 44
　　２　江戸時代の遺構と遺物 …… 45
　　(1) 掘立柱建物跡 …… 45
　　(2) 井戸跡 …… 47
　　３　その他の遺構と遺物 …… 48
　　(1) 土坑 …… 48
　　(2) 遺構外出土遺物 …… 50
　第４節　まとめ …… 52
第４章　恩名新三郎遺跡 …… 55
　第１節　調査の概要 …… 55
　第２節　基本層序 …… 55
　第３節　遺構と遺物 …… 57
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 57
　　(1) 竪穴建物跡 …… 57
　　(2) 陥し穴 …… 65

(3) 炉穴 …… 67
(4) 土坑 …… 68
2　その他の遺構と遺物 …… 70
遺構外出土遺物 …… 70
第4節　まとめ …… 71
写真図版 …… PL 1～PL16
抄　録

古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

古屋敷遺跡と恩名新三郎遺跡は，茨城県西部の古河市東部に所在しています。南流する鬼怒川と西仁連川に挟まれた結城台地の標高 20 mほどの台地縁辺部に立地しています。県道尾崎境線バイパス事業に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，茨城県教育財団が平成 24 年度に古屋敷遺跡は 1,856㎡，恩名新三郎遺跡は 689㎡について発掘調査を行いました。

古屋敷遺跡は，旧飯沼から樹枝状に発達した谷津によって形成された標高約 21 mの台地上に，恩名新三郎遺跡は，古屋敷遺跡から北へ約 500 mの台地から低地へ向かうなだらかな斜面に立地しています。

古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡遠景（南西から）

古屋敷遺跡の調査の内容と結果

調査の結果，縄文時代の竪穴建物跡，炉跡，土坑，遺物包含層，江戸時代の掘立柱建物跡，井戸跡などを確認しました。竪穴建物跡は出土した土器の様相から縄文時代後期に位置付けられます。遺跡全体の出土土器から縄文時代の中期から晩期にかけて人々が生活した集落跡であることが分かりました。江戸時代には屋敷地が設けられており，掘立柱建物跡と井戸跡はほぼ同時期に使われていました。

調査区近景（北から）

出土した縄文時代後期の土器

恩名新三郎遺跡の調査の内容と結果

調査の結果，縄文時代の竪穴建物跡，陥し穴，炉穴，土坑を確認しました。竪穴建物跡では屋内炉が設けられており，縄文時代早期の撚糸文系土器が出土しています。炉穴からは条痕文系土器が出土しており，縄文時代の早期前葉から後葉にかけて人々が生活していたことが分かりました。縄文時代早期の竪穴建物跡は調査例が少なく，当時の様子を知る貴重な手がかりとなりました。

第５号竪穴建物跡作業状況

出土した縄文時代早期の撚糸文系土器

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成22年7月1日，茨城県境工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，県道尾崎境線バイパス事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。

これを受けて茨城県教育委員会は平成23年4月28日に現地踏査を行い，その後，平成23年5月24日から26日まで古屋敷遺跡，平成23年8月11日・17日に恩名新三郎遺跡の試掘調査をそれぞれ実施し，遺跡の所在を確認した。

平成23年6月30日に古屋敷遺跡，平成23年11月22日に恩名新三郎遺跡について，茨城県教育委員会教育長は，茨城県境工事事務所長あてに事業地内に遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成24年2月2日，茨城県境工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡について，文化財保護法第94条に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，両遺跡とも現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，平成23年2月13日に古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡について，工事着手前に発掘調査を実施するよう茨城県境工事事務所長あてに通知した。

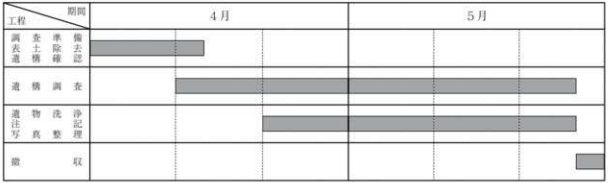
平成24年2月17日，茨城県境工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに，県道尾崎境線バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。

平成24年2月23日，茨城県教育委員会教育長は茨城県境工事事務所長あてに，古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡についての発掘調査の範囲及び面積等について回答し，財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，茨城県境工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成24年4月1日から5月31日まで発掘調査を実施することになった。

第2節　調　査　経　過

古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡の調査は，平成24年4月1日から5月31日までの2か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節 位 置 と 地 形

古屋敷遺跡は茨城県古河市恩名字古屋敷 1276 － 2 番地ほかに，恩名新三郎遺跡は茨城県古河市恩名字新三郎 1076 番地ほかに所在している。

古河市は，茨城県の最西部に位置している。市の西側を渡良瀬川が南流し，南側を南東方向へ利根川が流れている。古河市域の地形は，鬼怒川低地と西仁連川低地に挟まれた結城台地，旧飯沼・西仁連川低地と渡良瀬川低地に挟まれた猿島台地の洪積台地，旧飯沼や利根川及びそれらの支流により開析され谷津が樹枝状に入り組んだ標高 11 m を中心とする沖積低地からなっている。

結城・猿島台地の基部を構成する地層は，浅海性の貝化石等を産出する成田層である。その上に，竜ヶ崎砂礫層があり，さらにその上に，灰白色の常総粘土層が堆積している。そして，表土の下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積している。

古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡は，古河市東部（旧三和町）に位置している。古屋敷遺跡は，結城台地中央部の旧飯沼から樹枝状に発達した谷津によって形成された標高 21 m の舌状台地縁辺部に立地している。調査前の現況は，畑地である。恩名新三郎遺跡は，古屋敷遺跡より北へ約 500 m に位置し，標高 20 m の台地縁辺部の緩斜面に立地している。調査前の現況は，畑地である。

第2節 歴 史 的 環 境

古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡の所在する結城台地の中央部には，『茨城県遺跡地図』[1] によれば，数多くの遺跡が分布している。ここでは，両遺跡に関連する周辺遺跡を中心に，時代を追って概要を述べる。

旧石器時代の遺跡は，香取遺跡や二十五里寺遺跡が確認されている。二十五里寺遺跡は，採土工事中にナイフ形石器が採集されたことが報告されており[2]，遺構は確認されていないが，当地域において旧石器時代から人々が生活していたことがうかがえる。

縄文時代の遺跡は，旧飯沼両岸の台地の縁辺部から中央部にかけて多くが立地し，南丸山西遺跡〈3〉，南丸山東遺跡〈6〉，古屋遺跡〈7〉，一ノ木北遺跡〈8〉，一ノ木南遺跡〈10〉，北下山遺跡〈14〉，恩名遺跡〈58〉などが確認されている。古屋敷遺跡から南東へ約 1.7km に位置する北下山遺跡は，旧飯沼に臨む舌状台地先端部に立地している。早期から晩期までの遺構と遺物が確認されており，長期に渡って広範囲に生活が営まれていた。出土土器は，早期では田戸下層式，茅山式，前期では黒浜式，中期では勝坂式，加曽利Ｅ式，後期では称名寺式，加曽利Ｂ式，安行Ⅰ・Ⅱ式，晩期は安行Ⅲ・大洞式土器などが出土している。古屋敷遺跡は，古屋敷遺跡から南へ約 400 m に位置し，同じ舌状台地上の突端に立地している。古屋敷遺跡と同時期の後期で堀之内式，加曽利Ｂ式土器が出土しており，当遺跡との関連性が推測される。

弥生時代の遺跡は，番田遺跡〈20〉，五十塚金くそ遺跡〈39〉，前久保遺跡〈42〉，江口遺跡〈44〉，西せんのう山遺跡〈45〉，尾崎本田遺跡〈50〉の 6 遺跡が確認されている。確認された弥生時代の遺跡自体が少なく，前期の遺跡は確認されていない。前久保遺跡，江口遺跡，尾崎本田遺跡から出土した土器は，いずれも櫛描文のある二軒屋式土器である。二軒屋式土器は，栃木県域に広く分布する弥生時代後期のものであり，茨城県域

の弥生文化との交流を示唆している。

古墳時代の遺跡は，五十塚古墳群〈40〉，大塚古墳群〈46〉，東浦古墳〈47〉などが確認されている。五十塚古墳群は，旧飯沼右岸の台地縁辺部，標高 20 m に位置し，前方後円墳 1 基，円墳 2 基が確認されている。時期は 5 世紀後半に比定され，旧三和町域を統治していた人物が埋葬されたと考えられている。また，旧三和町域に群在する小形の古墳は，ほとんどが 6 世紀後半から 7 世紀中葉の築造とみられている。

律令期の旧三和町域は，下総国結城郡の一部と猿島郡に属していたとされており，東は常陸国，北は下野国に接していた。古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡付近は結城郡に属し，同台地上で須恵器の生産が行われるようになった。旧飯沼に臨む台地縁辺部には，浜ノ台窯跡〈55〉，堀崎窯跡〈56〉，古屋敷窯跡〈4〉，古屋東窯跡〈5〉などの三和窯跡群が確認されている。浜ノ台窯跡では，須恵器窯跡 3 基，竪穴建物跡 1 棟，粘土採掘坑が確認されている。この窯で生産された須恵器は，結城郡内をはじめ，隣接する岡田郡，猿島郡に供給していたと考えられ，下妻市の菅葉遺跡[3]（岡田郡），古河市の本田山遺跡[4]（猿島郡）などから同窯産の須恵器が確認されている。また，下総国府が所在した市川市域や葛飾郡西部に位置する春日部市域からも三和産須恵器が多数確認されており，三和窯群が下総北西部への供給を担っていたと推測される[5]。

鎌倉・室町時代には，旧飯沼左岸の結城郡は，山川氏によって統治されるようになる。山川氏は結城氏の一族で，関ケ原の合戦後の慶長六年（1601），結城氏とともに越前国福井へ配置換えとなるまで当地域での地位を確立していた。江戸時代には，その子孫が代々恩名村の名主を務めていたという記録がある[6]。

江戸時代には山川氏の領地は天領となり，その後，各藩によって分散されている。享保年間には幕府による改革の一環として，旧飯沼の大規模な新田開発が行われた。新田開発に伴い私領から天領へ転換される村も生じ，天領・藩領・旗本領の入り組む領主支配形態が定まった。

※文中の〈　〉内の番号は，表 1 及び第 1 図の該当遺跡番号と同じである。

註

1）茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001 年 3 月

2）田川良・道沢明「茨城県猿島郡三和町二十五里寺遺跡の研究」『なわ』14　1975 年

3）小川和博・赤井博之・大澗淳志「菅葉遺跡発掘調査報告書」千代川村教育委員会　2003 年 3 月

4）佐々木竜郎「本田山遺跡」『茨城県猿島郡総和町　県営担い手育成畑地帯総合整備事業〈上大野地区〉埋蔵文化財発掘調査（第 1 号）報告書』 2002 年 3 月

5）郷土出版社『図説　古河・岩井・水海道・猿島の歴史』郷土出版社　2005 年 11 月

6）註 5）に同じ

参考文献

・三和町史編さん委員会『三和町史　通史編　原始・古代・中世』 1997 年 11 月

・三和町史編さん委員会『三和町史　資料編　原始・古代・中世』 1993 年 10 月

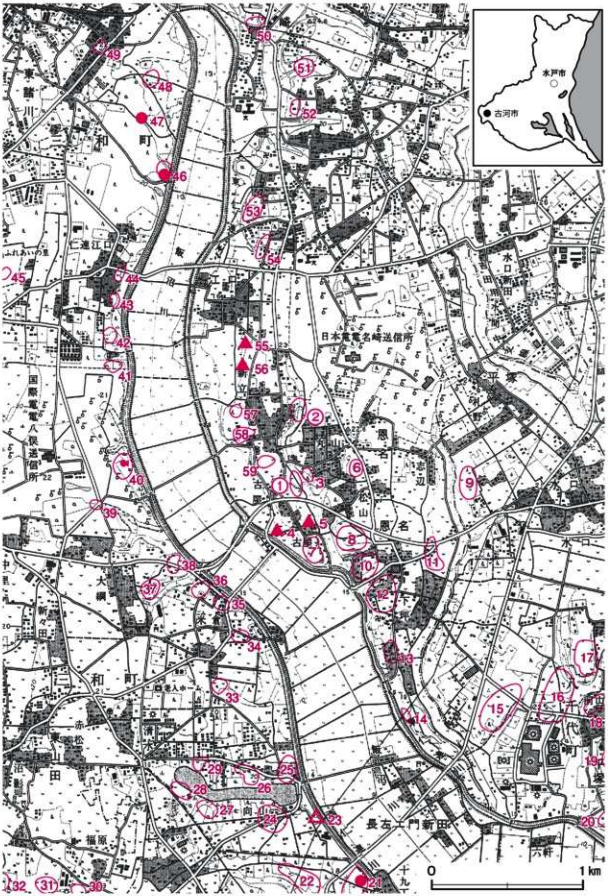
・三和町史編さん委員会『三和町史　資料編　近世』 1993 年 3 月

・石岡禎順・岩松和光・前田和昭・田村誉「新屋敷遺跡」『茨城県猿島郡三和町　都市計画道路大和田仁連線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 2005 年 8 月

・寺内久永「作野谷南遺跡　一般県道矢畑横倉新田線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 375 集　2013 年 3 月

・桜井一美・和田雄次・小松崎猛彦「一般国道 4 号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 3（三和地区）二十五里寺 A・B・C 遺跡・溜原 A 遺跡・下片田遺跡・中新田 A・B・C 遺跡・上片田 A・B・C 遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 53 集　1989 年 9 月

・猪瀬美奈子「三和町内出土の縄文土器（1）」『茨城県考古学協会誌』第 17 号　2005 年 5 月

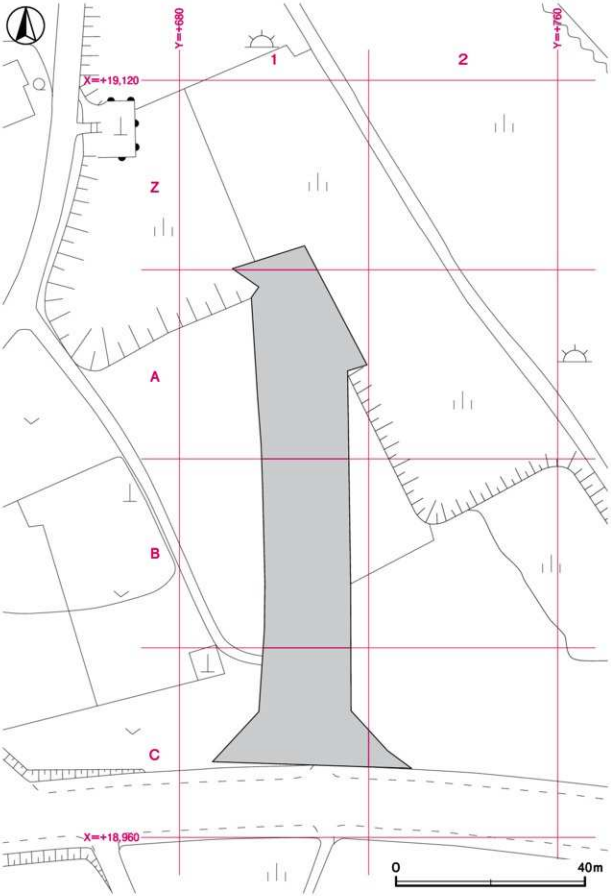


第 1 図　古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1「諸川・下総境」）

表1　古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	古屋敷遺跡		○					○
②	恩名新三郎遺跡		○					
3	南丸山西遺跡		○		○			
4	古屋敷窯跡					○		
5	古屋東窯跡					○		
6	南丸山東遺跡		○					
7	古屋遺跡		○					
8	一ノ木北遺跡		○			○		
9	札野遺跡		○			○		
10	一ノ木南遺跡		○		○	○		
11	山王前遺跡		○			○		
12	宮添遺跡		○			○		
13	馬場下遺跡				○			
14	北下山遺跡		○		○			
15	菱毛道西遺跡					○		
16	太夫久保遺跡		○			○		
17	平塚中台遺跡		○			○		
18	平塚本田北遺跡					○	○	○
19	平塚本田南遺跡					○		
20	番田遺跡	○	○	○	○	○	○	○
21	内野東遺跡		○		○			
22	内野西遺跡		○		○			
23	長左衛門新田貝塚		○					
24	西山東遺跡		○		○			
25	北山東遺跡		○					
26	北山西遺跡		○					
27	西山遺跡		○					
28	西山西遺跡		○		○	○		
29	馬船遺跡					○		
30	間ノ谷東遺跡						○	

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
31	間ノ谷西遺跡					○	○	
32	福原寺前遺跡		○			○	○	
33	馬船北遺跡		○			○	○	
34	米倉C遺跡					○		
35	米倉B遺跡				○			
36	米倉A遺跡				○			
37	大網東遺跡		○			○	○	
38	金堀台遺跡		○		○			
39	五十塚金くそ遺跡			○				
40	五十塚古墳群				○			
41	申田遺跡		○		○			
42	前久保遺跡		○	○	○			
43	前久保北遺跡		○			○	○	
44	江口遺跡		○	○	○			
45	西せんのう山遺跡			○				
46	大塚古墳群				○			
47	東浦古墳				○			
48	東浦遺跡		○		○	○	○	
49	土手中遺跡							○
50	尾崎本田遺跡		○	○	○			
51	稲荷塚遺跡					○	○	
52	松山遺跡					○	○	
53	杉ノ前遺跡					○		
54	殿山遺跡		○		○	○	○	
55	浜ノ台窯跡					○		
56	堀崎窯跡					○		
57	新立北遺跡		○					
58	恩名遺跡		○			○	○	
59	恩名観音面遺跡		○		○			



第２図　古屋敷遺跡調査区設定図（古河市都市計画図2,500分の１から作成）

第3章 古 屋 敷 遺 跡

第1節 調 査 の 概 要

古屋敷遺跡は，古河市の東部に位置し，旧飯沼左岸の標高約21 mの台地上に立地している。旧飯沼に臨むこの台地は，細い谷が入り込んだ舌状台地で，遺跡はその台地縁辺部から中央部に広がっている。遺跡の範囲は南北約250 m，東西約120 mである。調査区域は，遺跡の東部に位置していると想定され，南北約100 m，東西約20 mの細長い範囲である。調査面積は1,856㎡で，調査前の現況は畑地である。

調査の結果，縄文時代の竪穴建物跡1棟，炉跡4基，土坑70基，遺物包含層1か所，江戸時代の掘立柱建物跡1棟，井戸跡1基のほか，時期不明の土坑13基を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に10箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢・注口土器），土師質土器（小皿），陶器（香炉），石器（鏃・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石），剥片，鉄製品（不明）などである。

第2節 基 本 層 序

調査区北部（A 1 b5 区）にテストピットを設定し，基本土層（第3図）の観察を行った。以下，観察結果から層序を説明する。

第1層は，暗褐色を呈する耕作土層である。ローム粒子と焼土粒子を少量含み，粘性・締まりともに普通で，層厚は22 ～ 50㎝である。

第2層は，にぶい黄褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を微量含み，粘性・締まりともに強く，層厚は8 ～ 34㎝である。

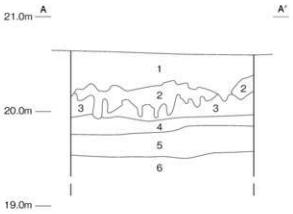
第3層は，褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子と白色粒子を微量含み，粘性・締まりともに強く，層厚は4 ～ 24㎝である。本層は姶良丹沢火山灰を含む層に比定される。

第4層は，褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み，粘性・締まりともに強く，層厚は8 ～ 22㎝である。本層は第Ⅱ黒色帯の上部に比定される。

第5層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み，粘性・締まりともに強く，層厚は21 ～ 34㎝である。本層は第Ⅱ黒色帯の下部に比定される

第6層は，褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み，粘性・締まりともに強く，下部が未掘のため，層厚は不明である。

遺構は，第2層の上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺 構 と 遺 物

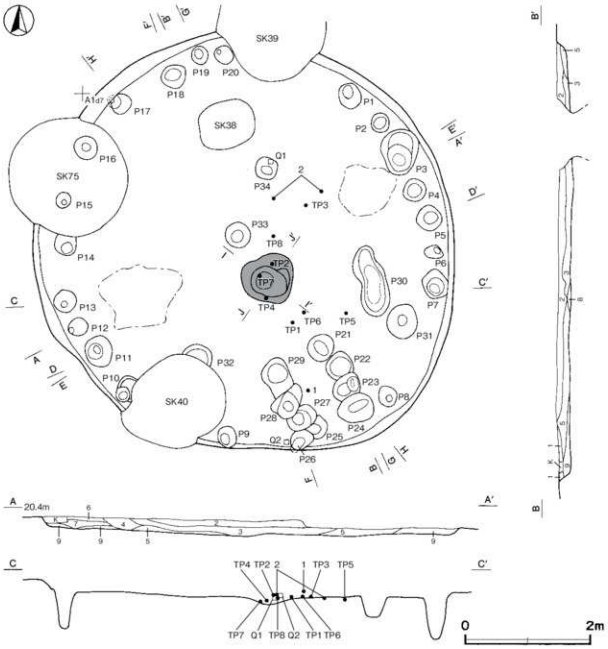
1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡１棟，炉跡４基，土坑70基，遺物包含層１か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

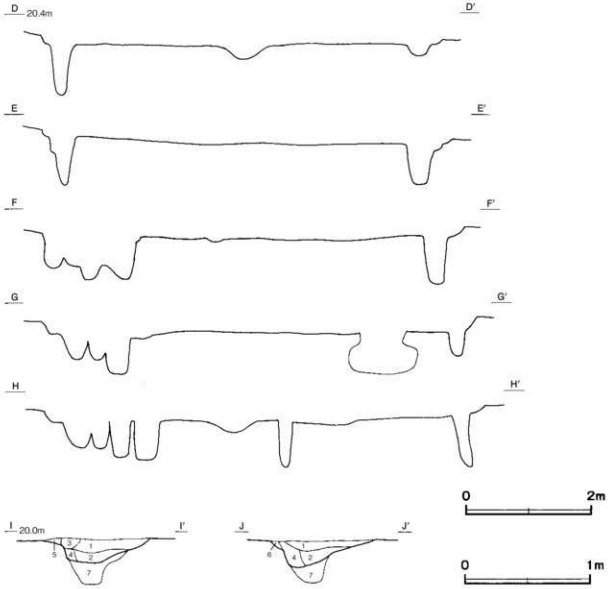
(1) 竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡（第４～６図）

位置 調査区北部のＡ１d7区，標高20ｍの台地平坦部に位置している。



第４図 第１号竪穴建物跡実測図（１）



第５図　第１号竪穴建物跡実測図（２）

重複関係　第38・39・40・75号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径7.05 m，短径6.57 mの円形である。壁高は８～18cmで，緩やかに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，北東部と南西部が踏み固められている。

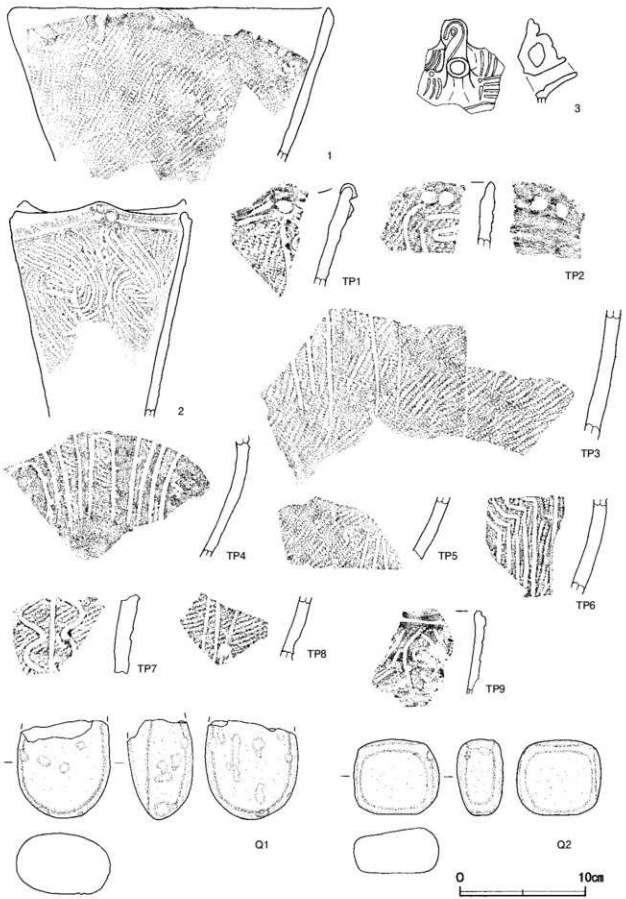
炉　中央部やや南寄りに付設されている。長径85cm，短径80cmの円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ20cmで，火熱を受けて赤変硬化している。炉床は第７層を埋め戻して構築されている。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化物微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
5　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット　34か所。Ｐ１～Ｐ20は深さ14～86cmで壁際に沿って配置されていることから壁柱穴と考えられる。Ｐ21～Ｐ29は深さ45～70cmで配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ30～Ｐ34は深さ19～80cmで性格は不明である。

覆土　９層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第6図　第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片1076点（深鉢，注口土器），石器3点（磨石），剥片4点が出土している。TP 1・TP 5・TP 6は南部，TP 3は中央部の床面からそれぞれ出土している。Q 1は北部，Q 2は南部の覆土下層から出土している。2，TP 2・TP 8は中央部，1は南部の覆土中層から出土している。TP 4・TP 7は炉の覆土上層から出土している。3，TP 9は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[25.0]	(12.2)	－	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	単節縄文RLを縦回転に施文	覆土中層	20%
2	縄文土器	深鉢	13.5	(17.2)	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁波頂部に刺突を伴う横位の沈線文　4本1組の沈線による渦巻文	覆土中層	60%　PL 7
3	縄文土器	注口土器	－	(7.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	注口部と口縁部をつなぐS字状把手　櫛歯状工具による条線文	覆土中	5%　PL 7

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	口縁波頂部に刺突を伴う横位の沈線文　単節縄文LR	床面	PL 9
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	口縁部の外内面に刺突文　単節縄文LR	覆土中層	PL 9
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	沈線による懸垂文　単節縄文LR	床面	PL 8
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	沈線による懸垂文　単節縄文RL	炉覆土上層	PL 9
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	沈線による懸垂文　単節縄文LR	床面	
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	淡黄	沈線による懸垂文　単節縄文RLを縦回転に施文	床面	PL 9
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	波状・縦位の沈線による懸垂文　単節縄文LR	炉覆土上層	PL 9
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	沈線による懸垂文　単節縄文LR	覆土中層	
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	灰褐	口縁部に横位の沈線文　渦巻文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨石	(7.8)	7.5	5.2	(367.5)	安山岩	研磨痕	覆土下層	PL10
Q 2	磨石	6.0	6.8	3.7	260.0	凝灰岩	全面研磨痕	覆土下層	PL10

(2)　炉跡

第1号炉跡（第7図）

位置　調査区南部のB 1 i 8区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸0.78 m，短軸0.70 mの不定形で，長軸方向はN－35°－Eである。炉床は確認面からの深さ14cmで，火熱を受けて赤変しており，硬化は弱い。

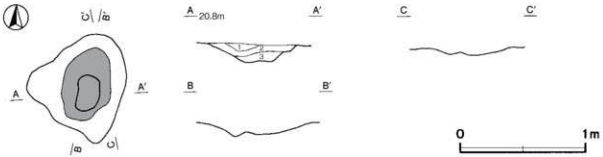
覆土　なし。第1～3層は，使用している間に堆積した層である。

土層解説

1　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物微量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック多量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片4点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。



第７図　第１号炉跡実測図

第２号炉跡（第８図）

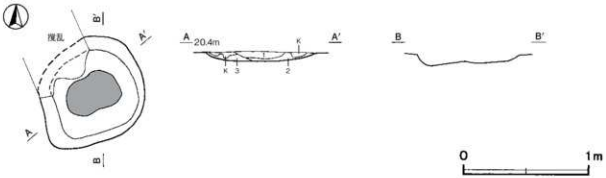
位置　調査区北部のＡ１i6区，標高20ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径0.92ｍ，短径0.80ｍの楕円形で，長径方向はＮ－63°－Ｅである。炉床は確認面からの深さ８㎝で，火熱を受けて赤変しており，硬化は弱い。

覆土　なし。第１～３層は，使用している間に堆積した層である。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量　　3　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

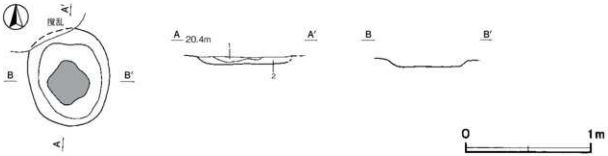
所見　時期は，他の炉跡と形状が類似していることから縄文時代と考えられる。



第８図　第２号炉跡実測図

第３号炉跡（第９図）

位置　調査区北部のＡ１h7区，標高20ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第９図　第３号炉跡実測図

規模と形状　長径 0.78 m，短径 0.64 m の楕円形で，長径方向はＮ－ 10°－Ｅである。炉床は確認面からの深さ６㎝で，火熱を受け赤変しており，硬化は弱い。

覆土　なし。第１・２層は，使用している間に堆積した層である。

土層解説
１　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック・炭化物微量　　２　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

所見　時期は，他の炉跡と形状が類似していることから縄文時代と考えられる。

第４号炉跡（第 10 図）

位置　調査区北部のＡ１f6 区，標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

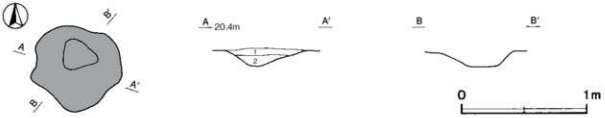
規模と形状　長径 0.72 m，短径 0.68 m の不整円形である。炉床は確認面からの深さ 14㎝で，火熱を受けて赤変しており，硬化は弱い。

覆土　なし。第１・２層は，使用している間に堆積した層である。

土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック少量　　２　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。



第 10 図　第４号炉跡実測図

表２　縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	B１i8	Ｎ－35°－Ｅ	不定形	0.78 × 0.70	14	凹状	緩斜	－	縄文土器片	
2	Ａ１i6	Ｎ－63°－Ｅ	楕円形	0.92 × 0.80	8	凹状	緩斜	－		
3	Ａ１h7	Ｎ－10°－Ｅ	楕円形	0.78 × 0.64	6	平坦	緩斜	－		
4	Ａ１f6	－	不整円形	0.72 × 0.68	14	凹状	緩斜	－	縄文土器片	

(3)　土坑

第１号土坑（第 11 図）

位置　調査区南部のＢ１i9 区，標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

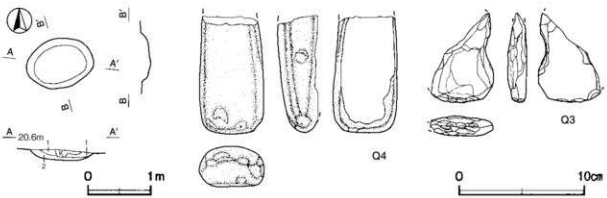
規模と形状　長径 1.06 m，短径 0.76 m の楕円形で，長径方向はＮ－ 77°－Ｅである。深さは 14㎝で，底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片45点（深鉢），石器2点（打製石斧，磨製石斧）が出土している。Q３・Q４は，いずれも覆土中から出土している。土器はいずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第11図　第１号土坑・出土遺物実測図

第１号土坑出土遺物観察表（第11図）

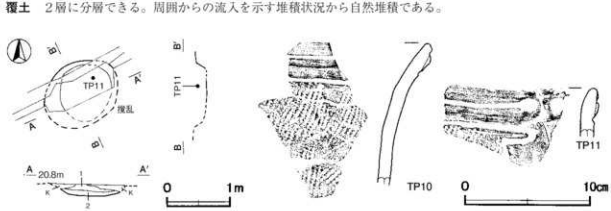
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q３	打製石斧	(7.1)	(5.0)	1.5	(56.98)	雲母片岩	分銅形　刃部の一部が欠損	覆土中	PL10
Q４	磨製石斧	(9.3)	5.2	(3.2)	(297.90)	凝灰岩	研磨痕	覆土中	PL10

第２号土坑（第12図）

位置　調査区南部のＢ１h7区，標高21ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　南部が撹乱を受けているため，北東・南西径は1.23ｍで，北西・南東径は0.62ｍしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。北東・南西径方向はＮ－56゜－Ｅである。深さは16cmで，底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。



第12図　第２号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片57点（深鉢）が出土している。TP11は東部の覆土上層，TP10は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。

第2号土坑出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部に沈線を沿わせた隆帯　単節縄文LR	覆土中	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	口縁部に隆帯　刺突を伴う横位の沈線文　単節縄文LR	覆土上層	PL 9

第7号土坑（第13図）

位置　調査区北部のA 1i8区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　南東部が耕作による撹乱を受けているため，北東・南西径は0.86 m で，北西・南東径は0.84 m しか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。深さは58cm で，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土　6層に分層できる。ロームブロックが含まれ，ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量　　4　褐　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
2　にぶい褐色　ロームブロック・炭化粒子微量　　5　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片119点（深鉢）が出土している。6は中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。

第13図　第7号土坑・出土遺物実測図

第7号土坑出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	[24.6]	(19.5)	–	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部無文　横位の沈線文　鋸手文　単節縄文LR	覆土下層	5%

第９号土坑（第 14 図）

位置　調査区中央部のＢ１d9 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北西部と南東部が耕作による撹乱を受けているため，北西・南東径は 0.70 mで，北東・南西径は 0.68 mしか確認できなかった。平面形は楕円形で，北西･南東径方向は N － 23°－Wである。深さは 44cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

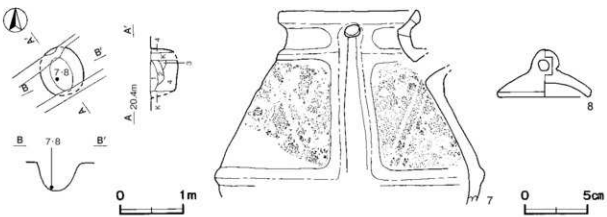
覆土　4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片 67 点（深鉢 65，注口土器１，蓋１）が出土している。７は，中央部の底面から南東方向に口縁部を向けた状態で出土している。８は７の内部から正位の状態で出土している。

所見　注口土器の内部に蓋が落ち込んだ状態で出土している。注口土器の内部から蓋以外は確認できなかった。時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。



第 14 図　第９号土坑・出土遺物実測図

第９号土坑出土遺物観察表（第 14 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
7	縄文土器	注口土器	[10.8]	(15.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	表面磨滅　口縁に穿孔し，隆線を平行に垂下２本の沈線による斜行文	底面	60%　PL 7
8	縄文土器	蓋	7.2	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	つまみの基部に刺突を伴う沈線文	7 内部	100%　PL 7

第 12 号土坑（第 15 図）

位置　調査区北部のＡ１i8 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北西部と南東部が耕作による撹乱を受けているため，北西・南東径は 1.24 mで，北東・南西径は 1.12 mしか確認できなかった。平面形は楕円形で，北西･南東径方向は N － 30°－Wである。深さは 42cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

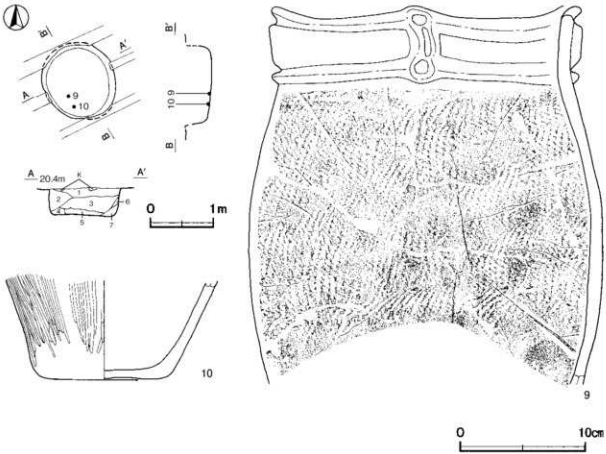
覆土　7 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　褐　　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片23点（深鉢）が出土している。9は中央部，10は南部の底面から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。



第15図　第12号土坑・出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	[24.0]	(30.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	半月弧状隆帯　単節縄文LR	底面	20%　PL 7
10	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	10.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端ヘラ磨き	底面	10%　PL 7

第15号土坑（第16図）

位置　調査区南部のB 1 h8区，標高21 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径1.34 m，短径1.22 mの円形である。深さは138cmで，底面は平坦である。壁は直立している。

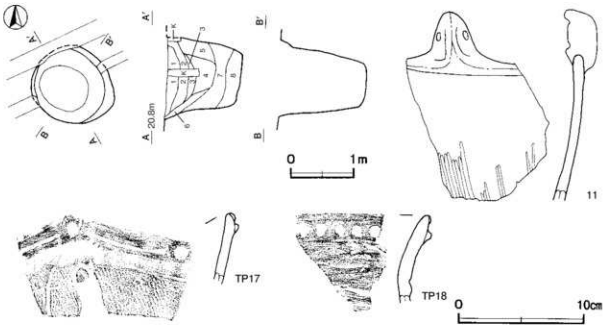
覆土　8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片205点（深鉢）が出土している。11，TP17・TP18は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭～前葉と考えられる。性格は不明である。



第16図　第15号土坑・出土遺物実測図

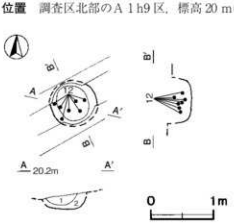
第15号土坑出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
11	縄文土器	深鉢	－	(15.1)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁波頂部に刺突文　体部ヘラ磨き	覆土中	5％　PL 9

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁波頂部に刺突を伴う横位の沈線文　単節縄文LR	覆土中	PL 9
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部隆帯に連続した丸棒状刺突文	覆土中	

第19号土坑（第17・18図）

位置　調査区北部のA 1 h9区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。



規模と形状　北西部と南東部が耕作による攪乱を受けているため，北東・南西径は0.74 mで，北西・南東径は0.66 mしか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。深さは34cmで，底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

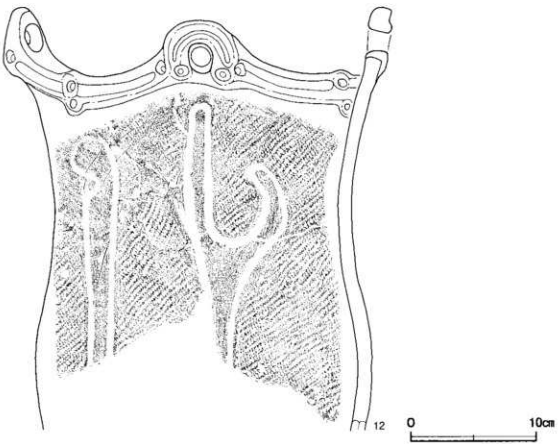
覆土　2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量

第17図　第19号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器片 11 点（深鉢）が出土している。12 は覆土中層に散在していた破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。



第 18 図　第 19 号土坑出土遺物実測図

第 19 号土坑出土遺物観察表（第 18 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	[28.9]	(33.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁直下部に撚糸，ノ字状モチーフを貼付　側突を伴う横位の沈線文　鎖手文　丁字文	覆土中層	40%　PL 8

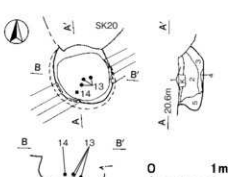
第 21 号土坑（第 19・20 図）

位置　調査区南部のＢ１h9 区，標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 20 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北部が第 20 号土坑に掘り込まれているため，北西・南東径は 1.00 m で，北東・南西径は 0.90 m しか確認できなかった。平面形は楕円形で，北西・南東径方向は N－20°－W である。深さは 40cm で，底面は皿状である。壁は内彎しており，底面からくびれ部までの高さは 24cm である。

覆土　5 層に分層できる。ロームブロックが含まれているこ



第 19 図　第 21 号土坑実測図

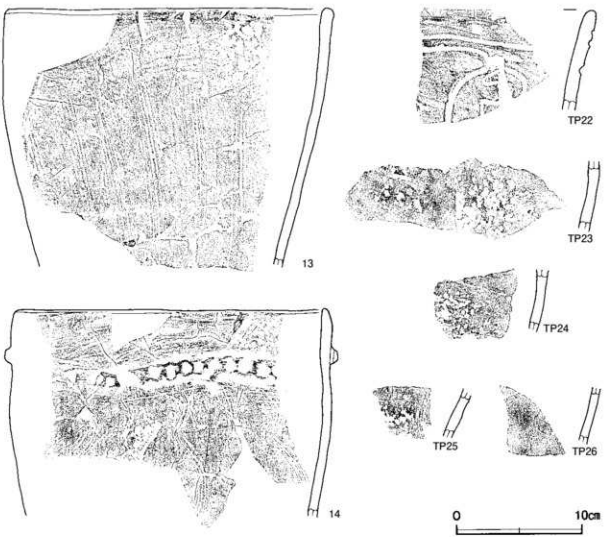
とから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片160点（深鉢）が出土している。13は中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。14は南部の覆土中層から出土している。TP22・TP26は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第20図　第21号土坑出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	25.7	(20.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部無文　横歯状工具の条線による懸垂文	覆土中層	60%　PL 8
14	縄文土器	深鉢	[24.4]	(16.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部無文　隆帯上に連続した丸棒状刺突文　横歯状工具の波状沈線による懸垂文	覆土中層	20%　PL 8

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	口縁部に横位の沈線文	覆土中	PL 9
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	櫛歯状工具による波状条線文	覆土中	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	櫛歯状工具による条線文	覆土中	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	櫛歯状工具による波状条線文	覆土中	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	櫛歯状工具による波状条線文	覆土中	

第 34 号土坑（第 21 図）

位置　調査区北部のＡ１e6 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.26 m，短径 1.10 m の楕円形で，長径方向は N － 25° － W である。深さは 39cm で，底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

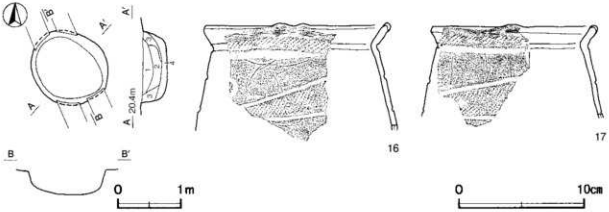
覆土　4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片 19 点（深鉢）が出土している。16・17 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から晩期前葉に比定できる。性格は不明である。



第 21 図　第 34 号土坑・出土遺物実測図

第 34 号土坑出土遺物観察表（第 21 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
16	縄文土器	深鉢	[14.2]	(8.4)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部に貼付文　磨消縄文	覆土中	10%　PL 9
17	縄文土器	深鉢	[12.8]	(7.3)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部に貼付文　磨消縄文	覆土中	5%　PL 9

第 36 号土坑（第 22 図）

位置　調査区北部のＡ１b6 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.70 m，短径 1.64 m の円形である。深さは 93cm で，底面は皿状である。壁はほぼ直立している。

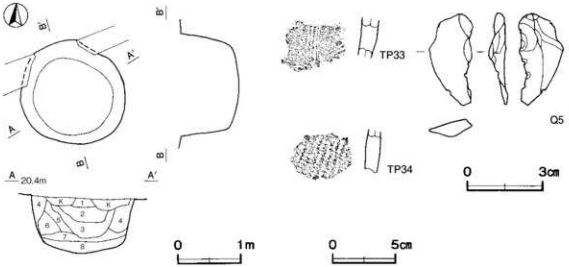
覆土　8 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片 61 点（深鉢），剥片 1 点が出土している。Q 5，TP33・TP34 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 22 図　第 36 号土坑・出土遺物実測図

第 36 号土坑出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄灰	櫛歯状工具による条線文	覆土中	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	単節縄文 RL を縦回転に施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	剥片	3.7	1.7	0.7	2.63	チャート	縦長剥片	覆土中	

第 38 号土坑（第 23 図）

位置　調査区北部のＡ１d7 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 1 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　開口部は長径 1.14 m，短径 1.08 mの不整円形である。深さは 83cmで，底面はほぼ平坦である。壁は底面から大きく内彎し，くびれ部から緩やかに立ち上がっている。くびれ部は長径 0.80 m，短径 0.68 mの不整楕円形で，底面からくびれ部までの高さは 34cmである。

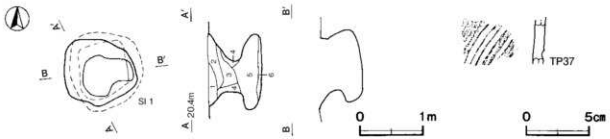
覆土　6 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片 27 点（深鉢）が出土している。TP37 は覆土中から出土している。

所見　形状から袋状土坑である。出土土器と後期前葉に比定できる第 1 号竪穴建物跡を掘り込んでいることから，後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 23 図　第 38 号土坑・出土遺物実測図

第 38 号土坑出土遺物観察表（第 23 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	沈線による斜行文　単節縄文LR	覆土中	

第 39 号土坑（第 24 図）

位置　調査区北部のＡ１c7 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

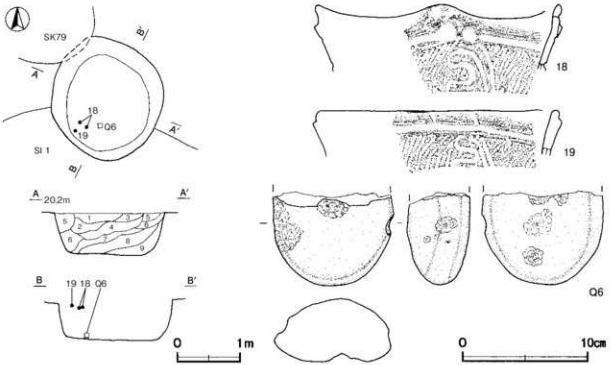
重複関係　第１号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 79 号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 1.97 m，短径 1.80 mの円形である。深さは 66cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　９層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量



第 24 図　第 39 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片26点（深鉢），石器1点（敲石）が出土している。Q 6は南部の底面，18・19は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。

第39号土坑出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
18	縄文土器	深鉢	[19.2]	(5.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部に縦突を伴う横位の沈線文　竅手文　単節縄文LR	覆土上層	5%
19	縄文土器	深鉢	[18.8]	(3.7)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部に横位の沈線文　竅手文　単節縄文LR	覆土上層	5%　PL 9

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	敲石	(7.4)	9.7	5.0	(283.84)	輝石	敲打痕	底面	PL10

第49号土坑（第25図）

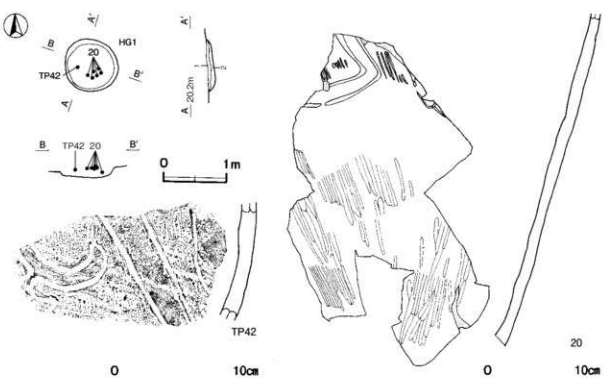
位置　調査区北部のA 1 i_9 区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第1号遺物包含層と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径0.90 m，短径0.84 mの円形である。深さは12cmで，底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第25図　第49号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片17点（深鉢）が出土している。20は中央部の覆土中層から上層にかけて出土した破片が接合したものである。TP42は覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭と考えられる。性格は不明である。

第49号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	－	(35.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による短い条線文　体部下端へラ磨き	覆土中～上層	20%　PL.8

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	櫛歯状工具による短い条線文　J字文	覆土上層	PL.10

第55号土坑（第26図）

位置　調査区北部のA 1 f8区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第56号土坑を掘り込んでいる。第1号遺物包含層とも重複しているが，新旧関係は不明である。

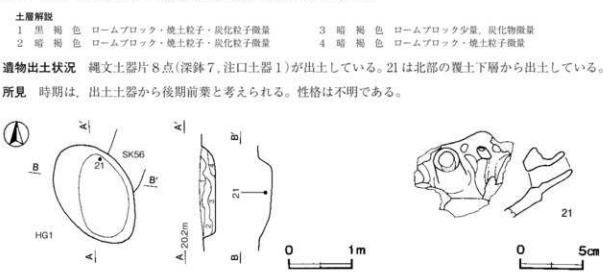
規模と形状　長径1.76 m，短径1.16 mの楕円形で，長径方向はN－37°－Wである。深さは28cmで，底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　4層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片8点（深鉢7，注口土器1）が出土している。21は北部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第26図　第55号土坑・出土遺物実測図

第55号土坑出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	注口土器	－	(6.7)	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	注口部	覆土下層	5%　PL.9

第62号土坑（第27図）

位置　調査区北部のA 1 g9区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第63･64号土坑を掘り込んでいる。第1号遺物包含層とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 1.42 m，短径 1.20 m の楕円形で，長径方向はN－41°－Wである。深さは 44cm で，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

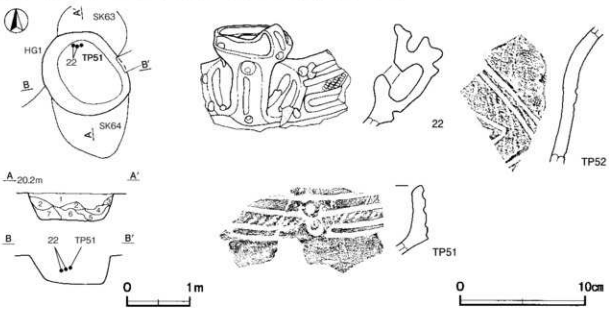
覆土　7 層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物・焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 46 点（深鉢）が出土している。22 は北部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。TP51 は北部の覆土中層から出土している。TP52 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 27 図　第 62 号土坑・出土遺物実測図

第 62 号土坑出土遺物観察表（第 27 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
22	縄文土器	深鉢	－	(8.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	橋状把手　刺突文　沈線で区画し，単節縄文 LR を充填	覆土中層	5％　PL 9

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	刺突文　沈線で区画し，単節縄文 LR を充填	覆土中層	PL10
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	沈線による斜行文　単節縄文 LR	覆土中	

第 73 号土坑（第 28 図）

位置　調査区北部のＡ 1 c7 区，標高 20 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 79・83 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.65 m，短径 1.30 m の楕円形で，長径方向はN－72°－Wである。深さは 54cm で，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

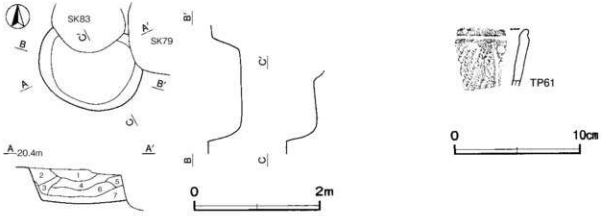
覆土　7 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片７点（深鉢）が出土している。TP61 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。



第 28 図　第 73 号土坑・出土遺物実測図

第 73 号土坑出土遺物観察表（第 28 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	口縁部に横位の沈線文　刺突を伴う縦位の沈線文　単節縄文L R	覆土中	

第 74 号土坑（第 29 図）

位置　調査区北部のＡ１c7 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 79 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東部が第 79 号土坑に掘り込まれているため，北西・南東径は 1.58 mで，北東・南西径は 1.48 mしか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。深さは 50cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

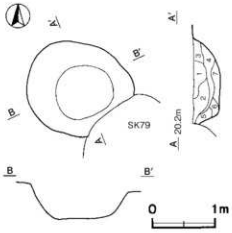
覆土　７層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片３点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 29 図　第 74 号土坑実測図

第 75 号土坑（第 30 図）

位置　調査区北部のＡ１d6 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 2.10 m，短径 1.88 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 63°－Ｅである。深さは 66cm で，底面は皿状である。壁はほぼ直立している。

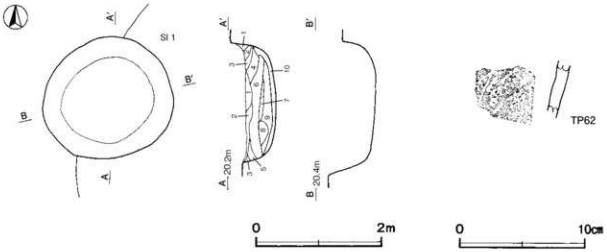
覆土　10 層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ロームブロック微量，炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
10　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 28 点（深鉢）が出土している。TP62 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 30 図　第 75 号土坑・出土遺物実測図

第 75 号土坑出土遺物観察表（第 30 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐灰	沈線による斜行文　単節縄文ＬＲ	覆土中	

第 77 号土坑（第 31 図）

位置　調査区北部のＡ１b8 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北東部が耕作による撹乱を受けているため，北西・南東径は 1.36 mで，北東・南西径は 1.30 m しか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。深さは 43cm で，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

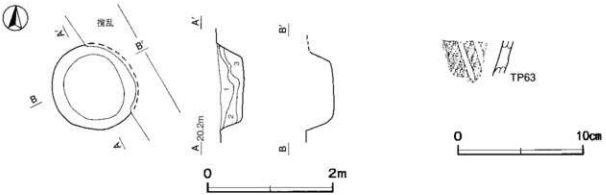
覆土　3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 13 点（深鉢）が出土している。TP63 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 31 図　第 77 号土坑・出土遺物実測図

第 77 号土坑出土遺物観察表（第 31 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	沈線による斜行文　単節縄文L R	覆土中	

第 78 号土坑（第 32 図）

位置　調査区北部のＡ１c7 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.68 m，短径 1.58 mの円形で，深さは 64cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

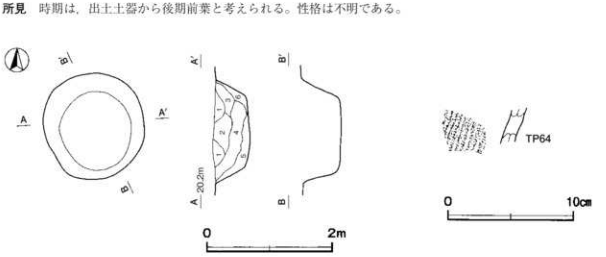
覆土　6 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片 38 点（深鉢）が出土している。TP64 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



第 32 図　第 78 号土坑・出土遺物実測図

第78号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	単節縄文L R	覆土中	

第79号土坑（第33図）

位置　調査区北部のA 1c7区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第73・74号土坑を掘り込んでいる。第39号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径1.91 m，短径1.63 mの楕円形で，長径方向はN－12°－Eである。深さは55cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

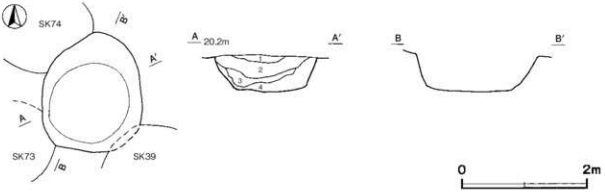
覆土　4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片5点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。



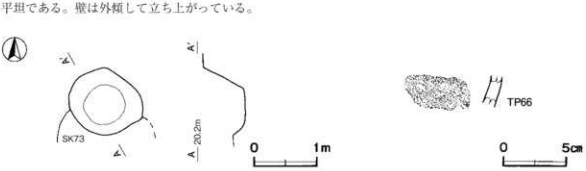
第33図　第79号土坑実測図

第83号土坑（第34図）

位置　調査区北部のA 1c7区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第73号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.18 m，短径1.06 mの楕円形で，長径方向はN－73°－Wである。深さは64cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。



第34図　第83号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢），剥片１点が出土している。TP66 は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。性格は不明である。

第 83 号土坑出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	磨滅しているが櫛歯状工具による条線文	覆土中	

第 84 号土坑（第 35 図）

位置　調査区南部のＣ１a8 区，標高 21 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径 0.71 m，短径 0.53 mの楕円形で，長径方向はＮ－75°－Ｅである。深さは 60cmで，底面は平坦である。壁は直立している。

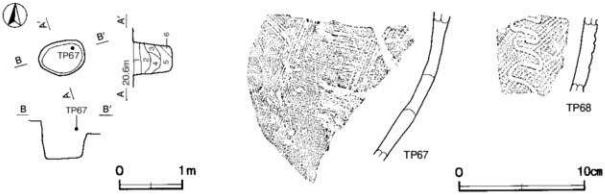
覆土　６層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 19 点（深鉢）が出土している。TP67 は東部の覆土上層から出土している。TP68 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。



第 35 図　第 84 号土坑・出土遺物実測図

第 84 号土坑出土遺物観察表（第 35 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	櫛歯状工具の条線による懸垂文，斜行文	覆土上層	PL10
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	蛇行沈線文　単節縄文Ｌ R	覆土中	

第 85 号土坑（第 36 図）

位置　調査区北部のＡ１d8 区，標高 20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第 86 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　開口部は長径2.20 m，短径1.97 mの楕円形で，長径方向はN－21°－Eである。深さは102cmで，底面は皿状である。壁は底面から内彎し，くびれ部から緩やかに立ち上がっている。底面からくびれ部までの高さは65cmである。

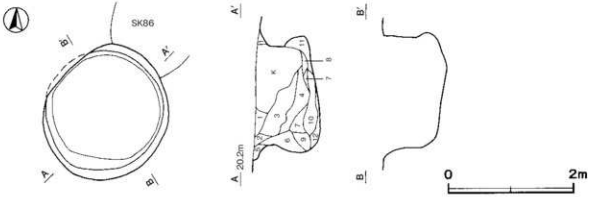
覆土　12層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
9　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量
12　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片2点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見　形状から袋状土坑である。時期は，後期前葉と考えられる。性格は不明である。



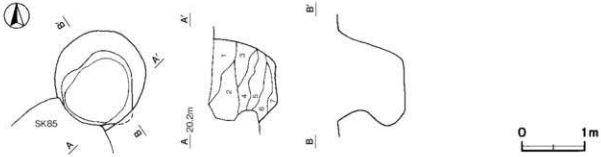
第36図　第85号土坑実測図

第86号土坑（第37図）

位置　調査区北部のA 1 c8区，標高20 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第85号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南西部を第85号土坑に掘り込まれているため，開口部は北西・南東径が1.48 mで，北東・南西径は1.46 mしか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。深さは105cmで，底面は平坦である。南東部の壁は底面から内彎し，くびれ部から緩やかに立ち上がっている。それ以外の壁は，外傾して立ち上がっている。底面からくびれ部までの高さは60cmである。



第37図　第86号土坑実測図

覆土　7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

所見　形状から袋状土坑と考えられる。時期は，後期前葉と考えられる第85号土坑に掘り込まれているため，それ以前である。性格は不明である。

第5号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第8号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第11号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第13号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第14号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

第17号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

第20号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量

第23号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第24号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第26号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

第29号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第30号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第31号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第32号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

第33号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第35号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第37号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

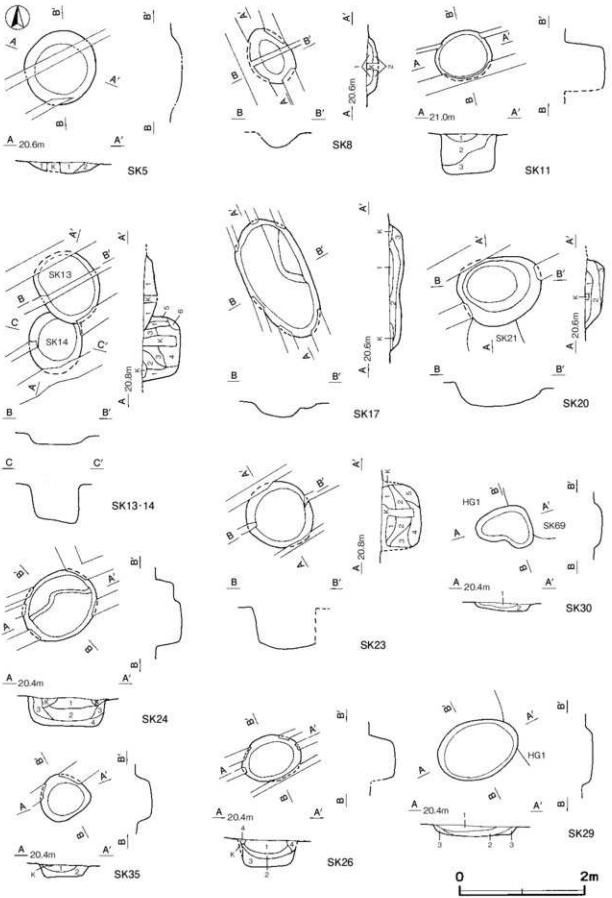
第40号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第43号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

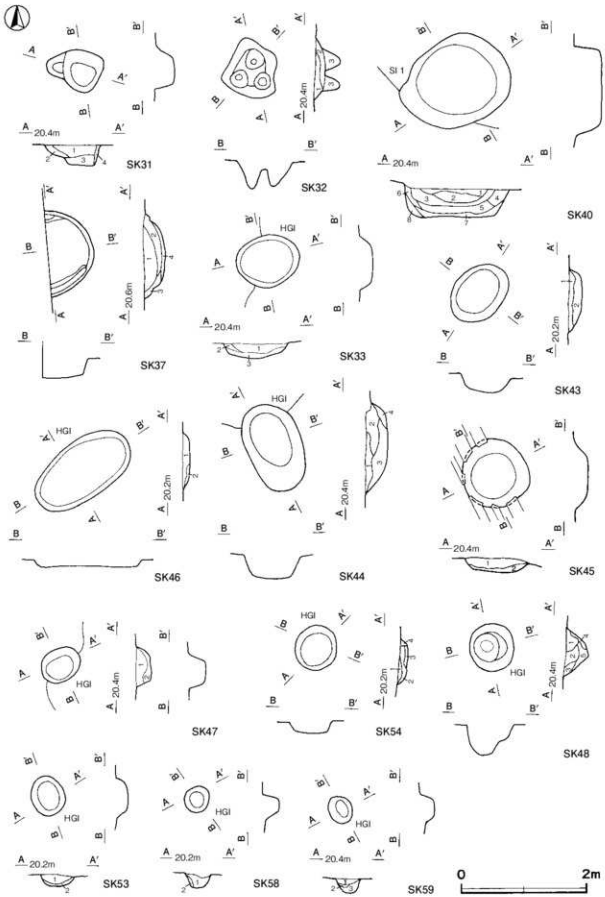
第44号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第45号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

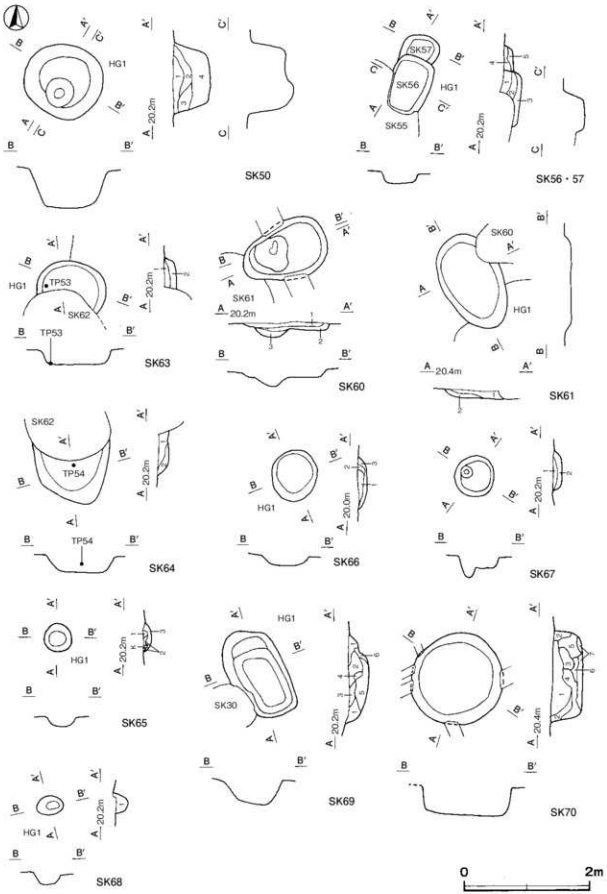
第46号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量



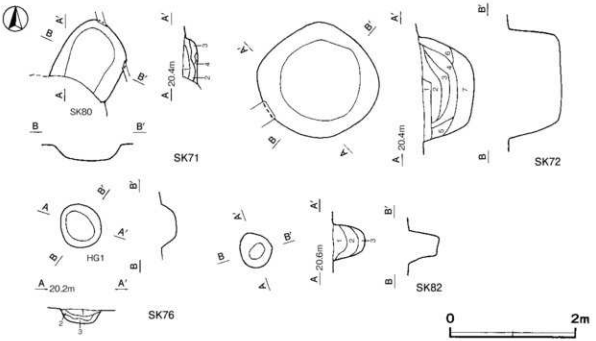
第38図　縄文時代土坑実測図（1）



第39図　縄文時代土坑実測図（2）



第40図　縄文時代土坑実測図（3）



第 41 図　縄文時代土坑実測図（4）

第 47 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 48 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 50 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 53 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 54 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 56・57 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 58 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 59 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 60 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 61 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 63 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 64 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 65 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 66 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 67 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 68 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第69号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第70号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第71号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

第72号土坑土層解説

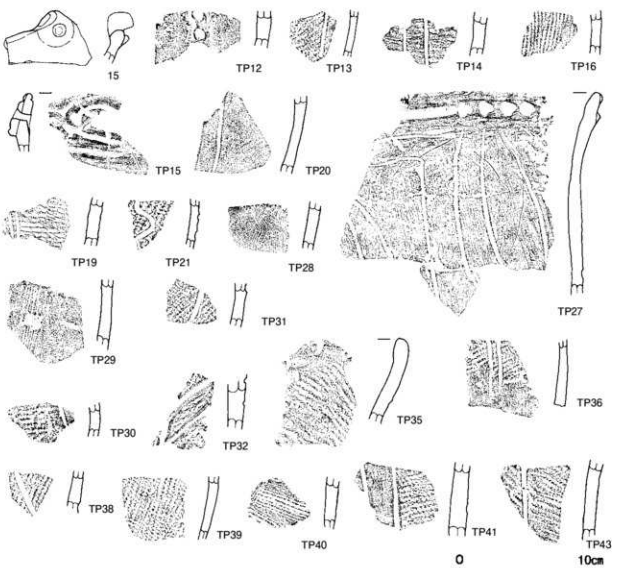
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

第76号土坑土層解説

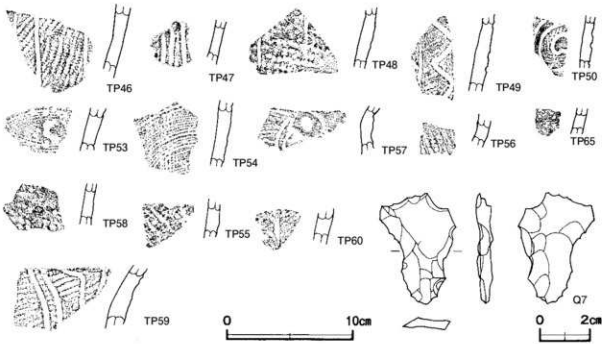
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第82号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量



第42図　縄文時代土坑出土遺物実測図（1）



第43図　縄文時代土坑出土遺物実測図（2）

縄文時代土坑出土遺物観察表（第42・43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
15	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁波頂部に丸棒状刺突文	SK24	5％

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	刺突文	SK 5	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	縦位の沈線文　単節縄文LR	SK 8	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	沈線による壁垂文	SK11	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	口縁波頂部分　弧状沈線文	SK13	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	淡黄	単節縄文	SK14	
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	沈線による壁垂文　無節縄文R	SK17	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	沈線による壁垂文	SK20	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	波状沈線文　単節縄文LR	SK20	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	口縁部連続した刺突を伴う横位の沈線文　櫛歯状工具の条線による壁垂文	SK23	PL 8
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	櫛歯状工具の波状条線による壁垂文	SK24	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	櫛歯状工具の条線による壁垂文	SK26	
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	単節縄文	SK31	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	単節縄文LR	SK32	
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	沈線による弧線文	SK35	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	無節縄文R	SK37	
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	沈線による壁垂文　単節縄文LR	SK37	
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	沈線による斜行文　単節縄文LR	SK40	
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	単節縄文LR	SK43	
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	櫛歯状工具による条線文	SK44	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	2本の沈線で区画し，縄文を磨り消す　単節縄文RL	SK45	PL 9
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	縦位の沈線文　単節縄文RL	SK50	
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐	縦位の沈線文　単節縄文LR	SK56	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	沈線による懸垂文	SK57	
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	沈線による懸垂文　単節縄文 RL	SK59	
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	浅状沈線文　単節縄文 LR	SK60	
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	渦巻文　単節縄文 LR	SK61	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	櫛歯状工具による弧状条線文	SK63	
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄	櫛歯状工具による弧状条線文	SK64	
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	単節縄文 RL	SK65	
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	単節縄文 LR を縦回転で施文	SK67	
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	刺突文　単節縄文 LR	SK69	
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	無節縄文 R	SK70	
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	沈線による懸垂文　単節縄文 LR	SK71	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	単節縄文 LR	SK72	
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	灰褐	刺突文	SK82	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	剥片	4.4	3.0	0.7	4.68	安山岩	調整剥片	SK40	

表3　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	B 1 i9	N－77°－E	楕円形	1.06 × 0.76	14	平坦	緩斜	自然	縄文土器片，打製石斧，磨製石斧	
2	B 1 h7	N－56°－E	［楕円形］	1.23 ×（0.62）	16	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	
5	B 1 g9	－	円形	1.19 × 1.12	18	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
7	A 1 i8	－	［円形］	0.86 ×（0.84）	58	平坦	直立	人為	縄文土器片	
8	B 1 i8	N－24°－W	［楕円形］	0.96 ×（0.64）	24	凹状	緩斜	自然	縄文土器片	
9	B 1 d9	N－23°－W	［楕円形］	（0.70）× 0.68	44	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
11	C 1 a6	N－60°－E	［楕円形］	0.88 ×（0.70）	64	平坦	直立	人為	縄文土器片	
12	A 1 i8	N－30°－W	［楕円形］	（1.24）× 1.12	42	平坦	直立	人為	縄文土器片	
13	B 1 g8	N－31°－W	［楕円形］	［1.16］× 0.95	14	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	SK14→本跡
14	B 1 h8	N－5°－W	［楕円形］	（0.88）× 0.80	62	傾斜	直立	人為	縄文土器片	本跡→SK13
15	B 1 h8	－	円形	1.34 × 1.22	138	平坦	直立	人為	縄文土器片	
17	A 1 d5	N－25°－W	楕円形	2.00 × 1.00	22	有段	緩斜	自然	縄文土器片	
19	A 1 h9	－	［円形］	0.74 ×（0.66）	34	平坦	直立	人為	縄文土器片	
20	B 1 g9	N－67°－E	楕円形	1.30 × 1.10	30	平坦	外傾	自然	縄文土器片	SK21→本跡
21	B 1 h9	N－20°－W	［楕円形］	（1.00）× 0.90	40	凹状	内彎	人為	縄文土器片	本跡→SK20
23	B 1 f7	－	円形	1.06 × 1.00	64	平坦	直立	人為	縄文土器片	
24	B 1 a8	N－57°－E	楕円形	1.24 × 1.02	40	有段	直立	自然	縄文土器片	
26	A 1 j9	N－73°－E	［楕円形］	0.92 ×（0.70）	40	平坦	直立	人為	縄文土器片	
29	A 1 g8	N－67°－E	楕円形	1.34 × 0.94	15	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	HG 1 と新旧不明
30	A 1 g8	N－81°－E	不定形	0.88 × 0.69	12	平坦	緩斜	自然		SK69→本跡 HG 1 と新旧不明
31	A 1 f7	N－80°－W	不定形	0.90 × 0.65	32	有段	外傾	人為	縄文土器片	
32	A 1 i6	N－22°－E	不整長方形	0.86 × 0.74	15	凹凸	緩斜	自然	縄文土器片	
33	A 1 f7	N－79°－E	楕円形	1.01 × 0.82	20	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 1 と新旧不明
34	A 1 e6	N－25°－W	楕円形	1.26 × 1.10	39	凹状	外傾	人為	縄文土器片	
35	A 1 c5	－	円形	0.79 × 0.75	24	平坦	外傾	人為	縄文土器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
36	A 1 b6	－	円形	1.70 × 1.64	93	皿状	直立	人為	縄文土器片、剥片	
37	A 1 f5	－	[円形・楕円形]	1.38 × (0.72)	34	平坦	直立	人為	縄文土器片	
38	A 1 d7	－	不整円形	1.14 × 1.08	83	平坦	内傾 緩斜	人為	縄文土器片	SI 1→本跡
39	A 1 c7	－	円形	1.97 × 1.80	66	平坦	外傾	人為	縄文土器片、敲石	SI 1→本跡 SK79と新旧不明
40	A 1 e7	N－56°－E	楕円形	1.71 × 1.38	44	平坦	外傾	人為	縄文土器片、剥片	SI 1→本跡
43	A 1 e8	N－46°－E	楕円形	1.08 × 0.76	22	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
44	A 1 g9	N－20°－W	楕円形	1.45 × 0.90	36	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 1と新旧不明
45	A 1 e6	－	円形	1.06	20	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	
46	A 1 f8	N－55°－E	楕円形	1.70 × 0.90	12	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 1と新旧不明
47	A 1 f7	N－69°－E	楕円形	0.64 × 0.52	28	平坦	外傾	人為		HG 1と新旧不明
48	A 1 f8	－	円形	0.76 × 0.74	46	皿状	外傾	人為	縄文土器片	HG 1と新旧不明
49	A 1 f9	－	円形	0.90 × 0.84	12	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 1と新旧不明
50	A 1 f9	N－49°－W	楕円形	1.26 × 1.14	60	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 1と新旧不明
53	A 1 f8	N－20°－W	楕円形	0.62 × 0.52	16	平坦	外傾	自然	磨石	HG 1と新旧不明
54	A 1 g9	－	円形	0.70 × 0.68	20	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 1と新旧不明
55	A 1 f8	N－37°－W	楕円形	1.76 × 1.16	28	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	SK56→本跡 HG 1と新旧不明
56	A 1 f9	N－15°－E	[長方形]	(0.96) × 0.66	36	平坦	外傾	人為	縄文土器片	SK57→本跡→SK55 HG 1と新旧不明
57	A 1 f9	N－60°－W	[長方形]	0.56 × (0.36)	17	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SK56 HG 1と新旧不明
58	A 1 f8	－	円形	0.42 × 0.40	24	平坦	外傾	自然		HG 1と新旧不明
59	A 1 f8	N－30°－W	楕円形	0.42 × 0.36	24	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
60	A 1 e8	N－65°－E	楕円形	1.40 × 0.94	22	有段	外傾	人為	縄文土器片	SK61→本跡
61	A 1 e8	N－27°－W	楕円形	1.60 × 0.98	10	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	本跡→SK60 HG 1と新旧不明
62	A 1 g9	N－41°－W	楕円形	1.42 × 1.20	44	平坦	外傾	人為	縄文土器片	SK63・64→本跡 HG 1と新旧不明
63	A 1 g9	－	[円形・楕円形]	1.12 × (0.72)	24	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SK62 HG 1と新旧不明
64	A 1 g9	－	[楕円形]	1.16 × (0.70)	26	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SK62
65	A 1 f9	－	円形	0.44	14	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 1と新旧不明
66	A 1 f9	N－5°－E	楕円形	0.84 × 0.72	14	平坦	緩斜	自然		HG 1と新旧不明
67	A 1 c8	－	円形	0.68 × 0.65	20	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
68	A 1 g8	N－82°－E	楕円形	0.44 × 0.30	20	皿状	外傾	人為	縄文土器片	HG 1と新旧不明
69	A 1 g8	N－22°－W	不整楕円形	1.50 × 0.92	38	有段	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SK30 HG 1と新旧不明
70	A 1 e6	－	円形	1.48 × 1.44	49	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
71	A 1 d6	N－24°－E	[楕円形]	(1.08) × 1.02	25	平坦	外傾	自然	縄文土器片	本跡→SK80
72	A 1 b7	－	円形	1.92 × 1.86	82	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
73	A 1 c7	N－72°－W	楕円形	1.65 × 1.30	54	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SK79・83
74	A 1 c7	－	[円形]	(1.58) × 1.48	50	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SK79
75	A 1 d6	N－63°－E	楕円形	2.10 × 1.88	66	皿状	直立	人為	縄文土器片	SI 1→本跡
76	A 1 f9	N－39°－W	楕円形	0.72 × 0.64	22	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 1と新旧不明
77	A 1 b8	－	[円形]	1.36 × (1.30)	43	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
78	A 1 c7	－	円形	1.68 × 1.58	64	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
79	A 1 c7	N－12°－E	楕円形	1.91 × 1.63	55	平坦	外傾	人為	縄文土器片	SK73・74→本跡 SK39と新旧不明
82	A 1 g6	N－26°－W	楕円形	0.58 × 0.50	51	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
83	A 1 c7	N－73°－W	楕円形	1.18 × 1.06	64	平坦	外傾	－	縄文土器片、剥片	SK73→本跡
84	C 1 a8	N－75°－E	楕円形	0.71 × 0.53	60	平坦	直立	人為	縄文土器片	
85	A 1 d8	N－21°－E	楕円形	2.20 × 1.97	102	皿状	内傾 緩斜	人為	縄文土器片	SK86→本跡
86	A 1 c8	－	[円形]	1.48 × (1.46)	105	平坦	内傾 外傾	人為		本跡→SK85

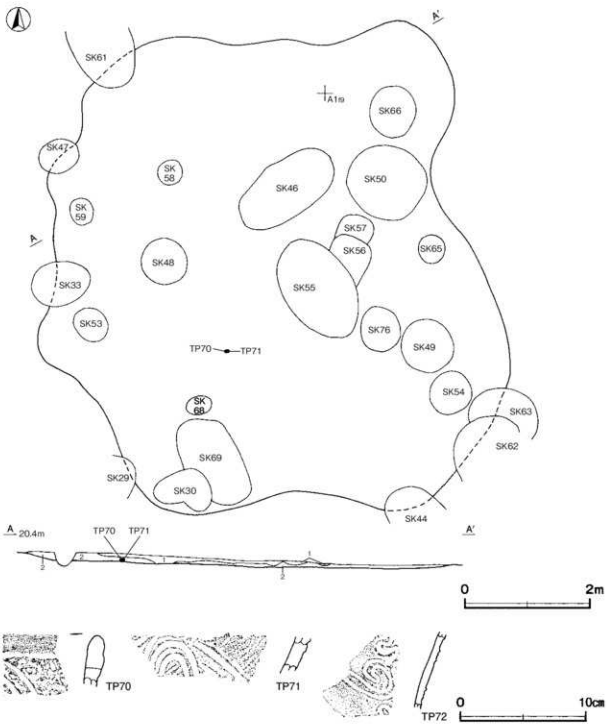
(4) 遺物包含層

第１号遺物包含層（第44図）

位置　調査区北部のＡ１e8～Ａ１g9区，標高20ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第59号土坑に掘り込まれている。第29・30・33・44・46～50・53～58・61～63・65・66・68・69・76号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

確認状況　縄文土器片を含む暗褐色土が南北約８ｍ，東西約７ｍの範囲に広がっていた。



第44図　第１号遺物包含層・出土遺物実測図

堆積状況　平坦で中央に向かって窪地状になっており，土砂の流入や土器の廃棄行為によって埋没したものと考えられる。層厚は4～10cmである。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片160点（深鉢），石器1点（磨石），剥片1点が堆積土中の広範囲から散在して出土している。土器は細片で，縄文時代後期前葉のものが主体である。TP70・TP71は，南部の堆積土下層から出土している。

所見　堆積土層の層厚は4～10cmと薄く，短期間に堆積したものと推測できる。土器は細片で，時期を特定できるものは限られるが，堀之内1式期の土器片が出土していることから，後期前葉の時期を中心として堆積が進んだと考えられる。本跡の北西には，後期前葉に比定できる第1号竪穴建物跡が近接しており，近い時期に廃絶された可能性がある。

第1号遺物包含層出土遺物観察表（第44図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	口縁部無文　横位の沈線文　単節縄文L R	堆積土下層	
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	渦巻文　単節縄文L R	堆積土下層	
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	渦巻文	覆土中	

2　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，掘立柱建物跡1棟，井戸跡1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第45・46図）

位置　調査区南部のB 1j7区，標高21 mほどの平坦な台地上に位置している。

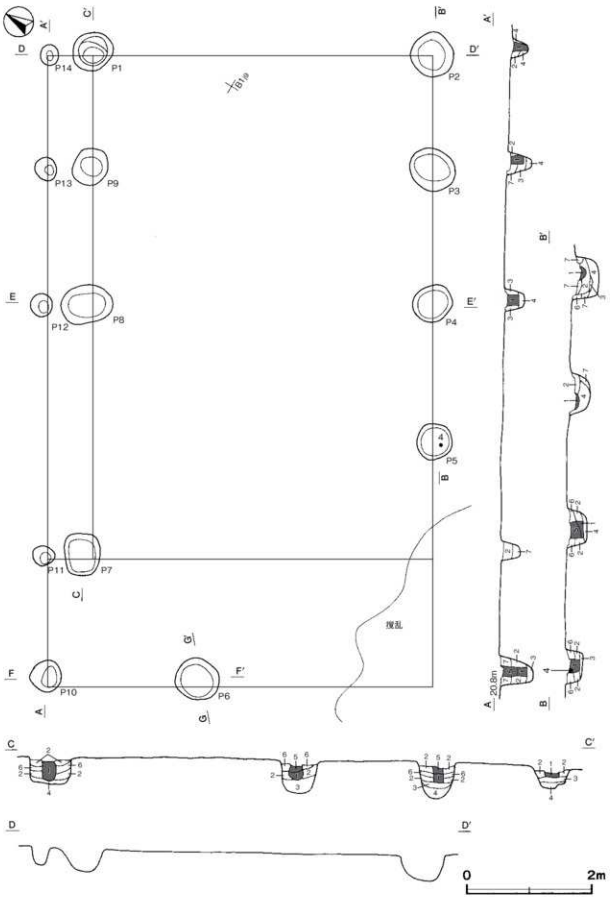
規模と構造　桁行4間，梁行1間の身舎に北西平と南西妻に庇が付く側柱建物跡で，桁行方向はN－61°－Eの東西棟である。規模は，桁行8.00 m，梁行5.40 mで，面積は43.20㎡である。庇の出は，北西平側が0.70 m，南西妻側が2.00 mである。庇を含めた規模は10.00 m，梁行6.10 mで，面積は61.00㎡である。柱間寸法は，桁行が2.00 m（6.7尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴　14か所。平面形は円形または楕円形で，長径31～81cm，短径28～68cmである。深さは28～59cmで，掘方の断面はU字形である。第1・5層は柱痕跡，第2～4・6～9層は埋土である。

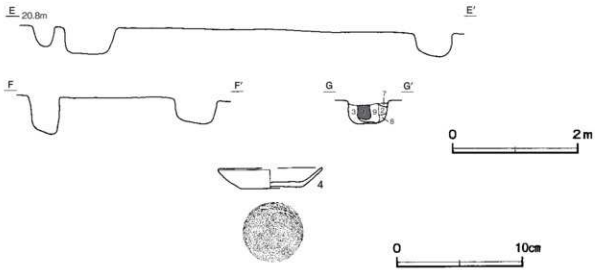
柱穴土層解説（各柱穴共通）
1　褐　　色　ロームブロック・炭化物微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片1点（小皿）のほか，縄文土器片45点（深鉢），土師器片3点（甕）が出土している。4はP 5の柱痕跡から出土している。

所見　時期は，出土土器から18世紀代と考えられる。遺跡名である「古屋敷」との関係が推測されるが，詳細は不明である。



第45図　第1号掘立柱建物跡実測図



第46図　第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師質土器	小皿	[8.1]	1.6	4.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	P 5柱痕跡	60% PL 7

(2)　井戸跡

第1号井戸跡（第47図）

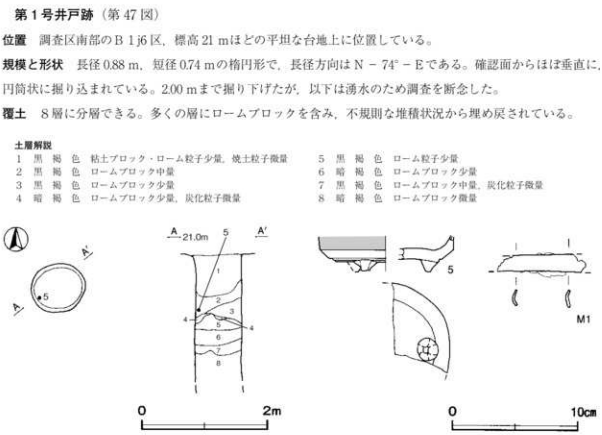
位置　調査区南部のB 1 j6区，標高21 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径0.88 m，短径0.74 mの楕円形で，長径方向はN － 74° － Eである。確認面からほぼ垂直に，円筒状に掘り込まれている。2.00 mまで掘り下げたが，以下は湧水のため調査を断念した。

覆土　8層に分層できる。多くの層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック微量



第47図　第1号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　陶器片１点（香炉），鉄製品１点（不明）のほか，縄文土器片 24 点（深鉢）が出土している。５は南西部覆土上層から出土している。Ｍ１は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 18 世紀前葉に比定できる。第１号掘立柱建物と同時期に機能していた可能性がある。

第１号井戸跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	陶器	香炉	－	(2.9)	[7.2]	長石・石英	灰白	普通	灰釉　脚部貼付１脚残存　瀬戸・美濃系	覆土上層	10%　PL.7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M１	不明	(7.0)	(1.5)	0.4	(8.41)	鉄	端部欠損	覆土中	

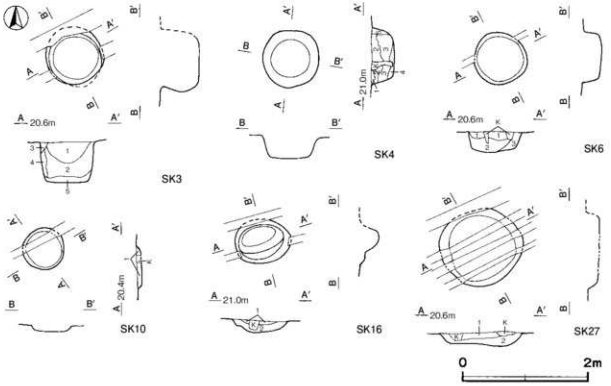
３　その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期や性格が明らかでない土坑 13 基を確認した。それぞれ実測図と土層解説及び一覧表を掲載する。

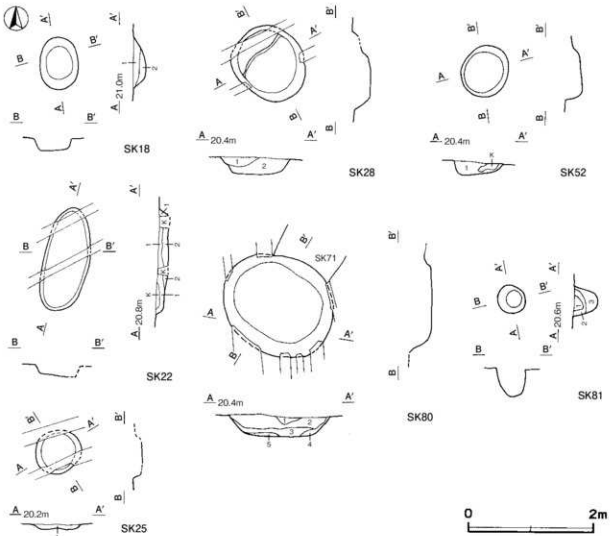
(1)　土坑

第３号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム ブロック・焼土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム ブロック・炭化物・焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム ブロック中量

第４号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ローム ブロック中量
5　褐　　色　ローム ブロック多量



第 48 図　その他の土坑実測図（１）



第 49 図　その他の土坑実測図（2）

第 6 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 10 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量

第 16 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 18 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 22 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 25 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量

第 27 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量

第 28 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量

第 52 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 80 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

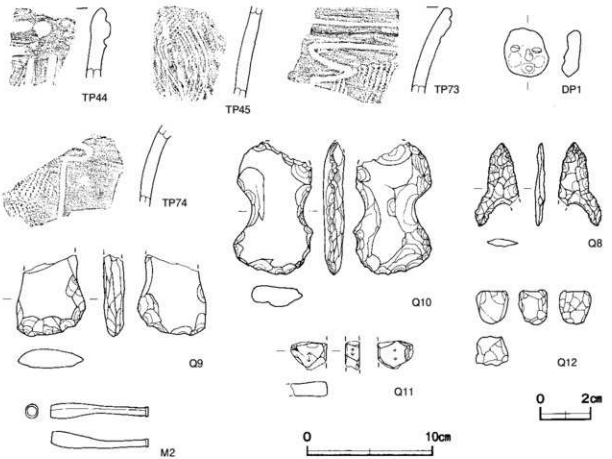
第 81 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

表4　その他の時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
3	B 1 f9	－	［円形］	[0.96] × 0.90	60	平坦	直立	人為	縄文土器片	
4	C 1 h5	－	円形	0.93 × 0.92	33	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
6	B 1 g8	－	円形	0.84 × 0.82	32	平坦	直立	人為	縄文土器片	
10	B 1 d9	－	円形	0.68 × 0.66	7	平坦	緩斜	自然	縄文土器片、土師器片	
16	B 1 j6	N－82°－E	［楕円形］	0.88 × (0.64)	28	有段	緩斜	自然		
18	B 1 j5	N－4°－W	楕円形	0.84 × 0.60	20	平坦	外傾	自然		
22	B 1 f6	N－10°－E	楕円形	1.66 × 0.74	18	平坦	直立	人為	縄文土器片	
25	B 1 a9	－	［円形］	0.74 × (0.64)	12	平坦	緩斜	自然		
27	B 1 b6	N－74°－E	［楕円形］	1.30 × (1.18)	20	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
28	A 1 i9	N－30°－W	楕円形	1.24 × 1.10	26	有段	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	
52	A 1 g8	N－24°－E	楕円形	0.84 × 0.74	20	平坦	外傾	人為		
80	A 1 d6	N－49°－W	楕円形	1.81 × 1.60	36	平坦	緩斜	人為		SK71→本跡
81	A 1 h5	－	円形	0.46 × 0.44	45	凱状	外傾	人為		

(2)　遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について実測図及び観察表を掲載する。



第50図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	口縁部に刺突を伴う横位の沈線文　単節縄文LR	表土	PL 9
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	横衝状工具による条線を格円状に施文	表土	
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	沈線で区画し縄文を磨り消す　単節縄文L R	表土	
TP74	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	沈線で区画し縄文を磨り消す　単節縄文L R	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	泥面子	1.9	1.8	0.7	1.89	長石・石英	にぶい橙	芥子面　おかめ。	表土	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	鏃	3.3	(1.8)	0.3	(1.08)	チャート	凹基無茎鏃　両面調整　一部欠損	表土	PL10
Q 9	打製石斧	(6.4)	5.5	1.7	(71.74)	砂岩	分銅形　両面調整	表土	PL10
Q10	打製石斧	(10.5)	6.4	1.6	(131.8)	頁岩	分銅形　両面調整	表土	PL10
Q11	砥石	(2.2)	(2.9)	1.1	(8.74)	泥岩	砥面３面	表土	
Q12	火打石	1.27	1.21	1.09	2.51	チャート	全面敲打痕	表土	

番号	器種	長さ	小口径	口付径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	煙管	7.7	1.0	0.7	14.83	銅	吸口部	表土	PL10

第4節 ま　と　め

1　はじめに

今回の調査で，縄文時代の竪穴建物跡1棟，炉跡4基，土坑70基，遺物包含層1か所，江戸時代の掘立柱建物跡1棟，井戸跡1基，時期及び性格が不明な土坑13基を確認した。当遺跡は，縄文時代後期と江戸時代の遺構が中心である。ここでは，確認した各時代の様相について遺構や遺物の特徴にふれながら，若干の考察を加えてまとめとしたい。

2　各時代の様相

(1)　縄文時代

ア　集落の範囲について

当該期の遺構は，竪穴建物跡1棟，炉跡4基，土坑70基，遺物包含層1か所である。第1号竪穴建物跡は，調査区北部の中央部に位置している。調査区の東側には谷が入り込んで斜面になっているため，集落は調査区域の西側の台地平坦部に広がっていると推測できる。出土土器は，主に後期前葉の堀之内1式期のもので，堀之内式土器の出土は調査区の広範囲におよび，当遺跡が位置する台地上全体が当時の生活域となっていたと想定できる。

イ　遺構について

第1号竪穴建物跡は，出土土器の様相から後期前葉の堀之内1式期のものである。当竪穴建物跡の周囲には大形の円形土坑（SK38・SK85・SK86）が存在している。土坑は，径1.08～2.20 mで円形や楕円形を呈し，壁面は底面から内彎して立ち上がっている。土器は出土していないが，規模と形状から時期は中期と考えられる。第1号竪穴建物跡を掘り込んでいる第38号土坑は，断面が明らかなフラスコ状を呈しているが，重複関係から後期前葉以降に位置づけられる。日立市の根岸西遺跡は，当遺跡とほぼ同時期（後期初頭～前葉）の遺跡で，壁面が底面からやや内彎している形状の土坑が報告されている。

第51図　第38号土坑断面図

根岸西遺跡の調査例からは，後期前葉まで内彎する形状が残るということがわかる。当遺跡で確認した底面から内彎する形状の土坑との共通性が見られる。

ウ　遺物包含層と土坑について

調査区北部の第１号竪穴建物跡の南東に近接する第１号遺物包含層と包含層の下から確認した土坑群の関係にふれておきたい。遺物包含層の範囲は南北約８ｍ，東西約７ｍで，堆積以前の旧地形は中央に向かってやや窪地状になっている。堆積土層の層厚は４～10cmと薄く，短期間に堆積した可能性が高い。出土土器は，後期初頭の称名寺式期の土器片が数点含まれているが，後期前葉の堀之内１式土器が大半を占めている。少なくとも後期前葉の時期を中心として堆積が進んだと考えられる。TP71・TP72は，第１号竪穴建物跡から出土した土器と文様が酷似しており，第１号竪穴建物跡の廃絶時期と遺物包含層の堆積時期は近いと考えてよいだろう。遺物包含層の下から確認した土坑は，確認面では検出できなかったため，遺物包含層が堆積する以前のものであるが，詳細な新旧関係は不明である。

エ　出土土器について

他の遺構から出土している土器をみていきたい。第49号土坑からは，後期初頭の称名寺式期の土器が出土している。第12･19号土坑からは，東北地方南部の土器型式である綱取Ⅰ式土器が出土している。堀之内１式土器と綱取Ⅰ式土器は共伴するケースが多く，東北地方南部の土器型式が確認されていることから，当地域と文化や技術の交流があったことがうかがえる。

第34号土坑からは，縄文時代晩期の安行Ⅲｂ式土器が出土している。晩期の土器が出土したのは第34号土坑１基のみで，単独で存在したとは考えにくく，調査区域外に集落が存在すると考えられる。

縄文時代は，こうした様相から中期，後期，晩期に集落が形成されていたことが明らかとなった。

(2)　江戸時代

当該期の遺構は，掘立柱建物跡１棟，井戸跡１基である。第１号掘立柱建物跡は桁行４間，梁行１間の身舎に北西平と南西妻に庇が付く側柱建物跡である。第５号ピットの柱痕跡から18世紀代とみられる土師質土器の小皿が出土していることから，少なくとも江戸時代中期には廃絶したものと考える。第１号掘立柱建物跡の北西1.5ｍには井戸跡が位置しており，陶器香炉が出土している。香炉は，瀬戸・美濃系の陶器で，18世紀に生産されたものと考えられる。両者の出土遺物は時期的に整合し，配置からみても母屋と付属施設からなる屋敷跡である。史料等からは裏付けられなかったが，「古屋敷」の名が示す屋敷跡の一部が確認された。

3　おわりに

以上，古屋敷遺跡で確認した各時代の様相について遺構や遺物の特徴にふれながら述べてきた。今回の調査で，当遺跡が縄文時代中期から晩期，江戸時代に土地利用がなされていたことが判明した。第38号土坑や遺跡名の「古屋敷」と確認した江戸時代の掘立柱建物跡との関係など課題は残ったが，今回の調査成果が，当地域の歴史解明の一助となれば幸いである。

参考文献

・三和町史編さん委員会『三和町史　通史編　原始・古代・中世』 1997年11月
・三和町史編さん委員会『三和町史　資料編　原始・古代・中世』 1993年10月
・三和町史編さん委員会『三和町史　資料編　近世』 1993年3月
・長津盛男『根岸西遺跡2　主要地方道日立笠間線道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告』第357集　2012年3月

第4章 恩名新三郎遺跡

第1節 調査の概要

恩名新三郎遺跡は，古河市の東部に位置し，旧飯沼左岸の標高約 20 mの台地上に立地している。旧飯沼に臨むこの台地は，細い谷が入り込んだ舌状台地で，遺跡はその台地縁辺部の緩斜面に広がっている。遺跡の範囲は，南北約 200 m，東西約 100 mである。遺構の配置から遺跡は西に広がっていると推測できる。調査区域は，遺跡の東部に位置していると想定される。調査面積は 689㎡で，調査前の現況は畑地である。

調査の結果，縄文時代の竪穴建物跡６棟，陥し穴２基，炉穴２基，土坑 11 基を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に１箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢），石器（鏃・磨製石斧・磨石），剥片などである。

第2節 基本層序

調査区北部（A 2i2 区）にテストピットを設定し，基本土層（第 52 図）の観察を行った。以下，観察結果から層序を説明する。

第１層は，暗褐色を呈する耕作土層である。ローム粒子と炭化粒子を少量含み，粘性･締まりともに普通で，層厚は 26 ～ 36cmである。

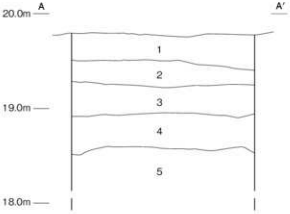
第２層は，にぶい黄褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を微量含み，粘性･締まりともに普通で，層厚は 14 ～ 28cmである。

第３層は，褐色を呈するハードローム層である。粘性･締まりともに普通で，層厚は 26 ～ 36cmである。

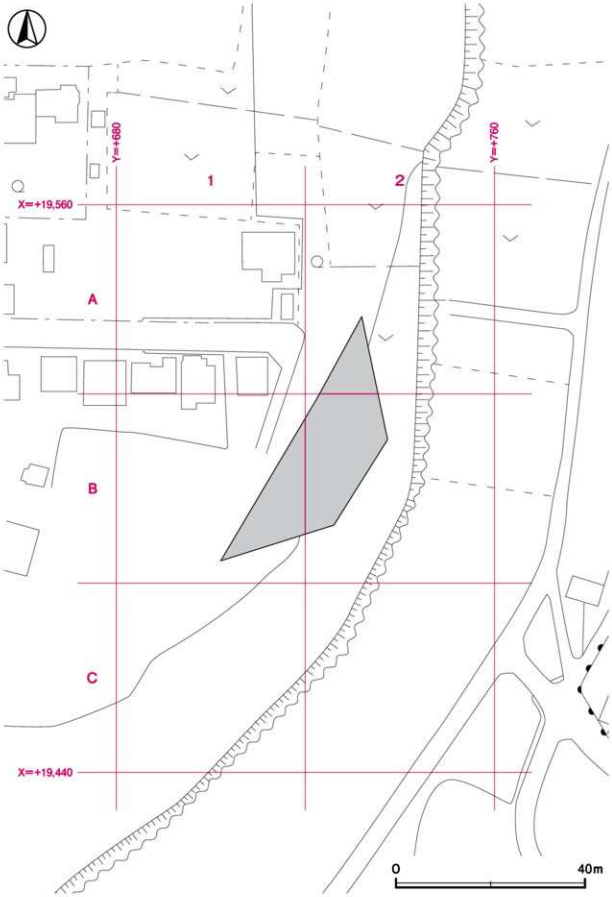
第４層は，褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み，粘性・締まりともに強く，層厚は 28 ～ 40cmである。本層は第Ⅱ黒色帯に比定される。

第５層は，褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み，粘性・締まりともに強く，下部が未掘のため，層厚は不明である。

遺構は，第２層の上面で確認した。



第 52 図 基本土層図



第 53 図　思名新三郎遺跡調査区設定図（古河市都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第3節 遺 構 と 遺 物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡6棟，陥し穴2基，炉穴2基，土坑11基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第54・55図）

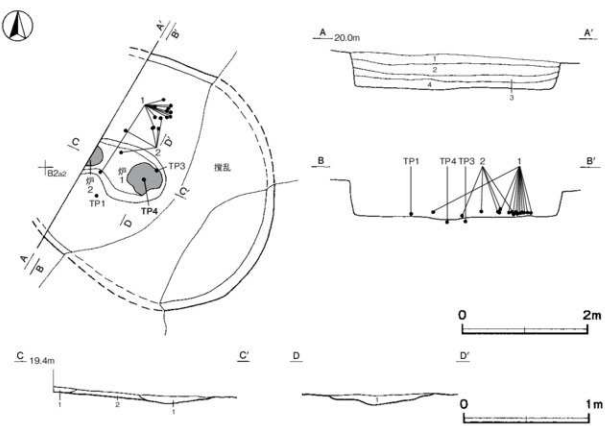
位置 調査区北部のA2j2区，標高20mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びており，北東部から南西部にかけて攪乱を受けているため，南北径は4.00mで，東西径は3.54mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。壁高は42～55cmで，ほぼ直立している。

床 平坦である。硬化面や壁溝は認められなかった。

炉 2か所。いずれも中央部に付設されている。北西部が調査区域外に延びており，北西・南東径は125cmで，北東・南西径は92cmしか確認できなかった。楕円形を呈する地床炉である。炉1・炉2の炉床は，それぞれ床面から深さ6cm・4cmで，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説（炉1・炉2共通）
1 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量　2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第54図 第1号竪穴建物跡実測図

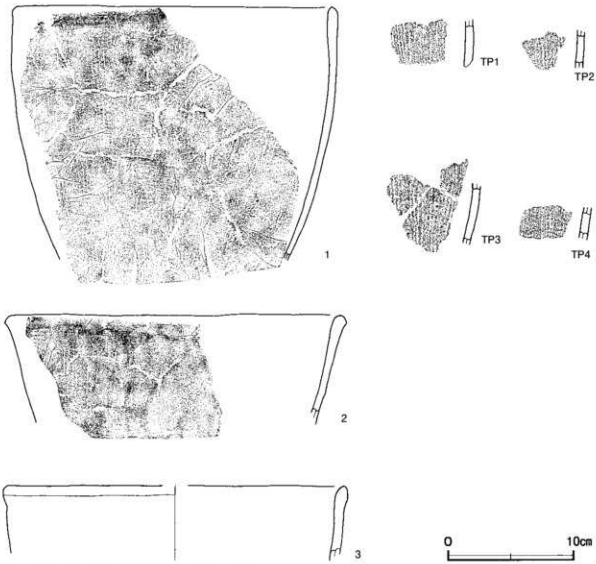
覆土　4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片28点(深鉢)が中央部の炉付近から北部にかけて散在した状態で出土している。1・2は北部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。TP 1は中央部の床面，TP 3・TP 4は炉1から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期前葉に比定できる。



第55図　第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[25.2]	(20.1)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	燃糸文	覆土下層	10%　PL15
2	縄文土器	深鉢	[26.4]	(8.6)	－	長石・石英・雲母	暗褐	普通	燃糸文	覆土下層	10%　PL15
3	縄文土器	深鉢	[27.0]	(5.8)	－	長石・石英・雲母	褐	普通	燃糸文，外面磨滅	覆土中	5%　PL15

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	撚糸文	床面	PL15
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	覆土中	PL15
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	撚糸文	炉1	PL15
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	撚糸文	炉1	PL15

第２号竪穴建物跡（第56図）

位置　調査区北部のＢ２b2区，標高20ｍの台地縁斜面部に位置している。

重複関係　第１号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　北西部が調査区域外に延びており，北東部が撹乱を受けているため，北東・南西径は3.90ｍで，北西・南東径は3.41ｍしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。壁高は９～34cmで，南部は外傾して立ち上がり，わずかに残る北部や南東部は緩やかに立ち上がっている。

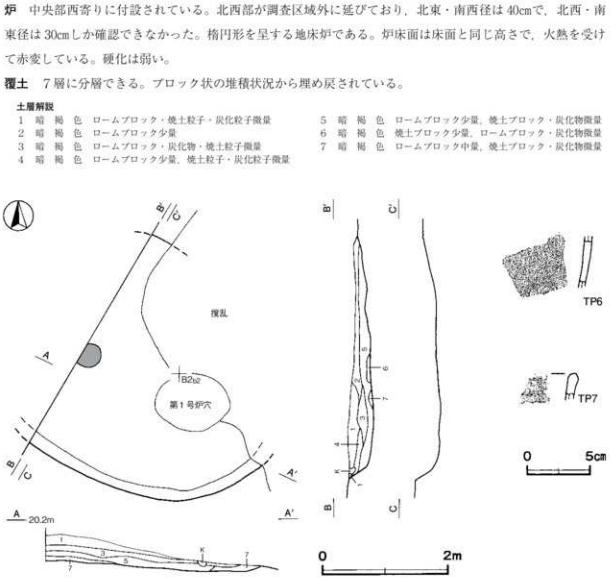
床　平坦である。硬化面や壁溝は認められなかった。

炉　中央部西寄りに付設されている。北西部が調査区域外に延びており，北東・南西径は40cmで，北西・南東径は30cmしか確認できなかった。楕円形を呈する地床炉である。炉床面は床面と同じ高さで，火熱を受けて赤変している。硬化は弱い。

覆土　７層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量



第56図　第２号竪穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片９点（深鉢），石器２点（軽石）が出土している。TP ６・TP ７は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期前葉に比定できる。

第２号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 56 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP ６	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐	撚糸文	覆土中	PL16
TP ７	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	口縁部	覆土中	

第３号竪穴建物跡（第 57 図）

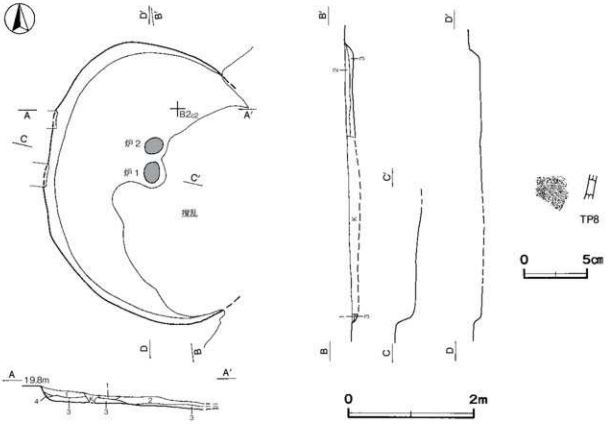
位置　調査区北部のＢ２c1 区，標高 20 ｍの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状　南東部が撹乱を受けているため，北西・南東径は 4.58 ｍで，北東・南西径は 3.62 ｍしか確認できなかった。平面形は楕円形で，北西・南東径方向はＮ－ 12°－Ｗである。壁高は 10 ～ 26cmで，西部は外傾して立ち上がり，北部と南部は緩やかに立ち上がっている。

床　確認出来た部分は，ほぼ平坦である。硬化面や壁溝は認められなかった。

炉　２か所。いずれも中央部北寄りに付設されている。炉１・炉２ともに，長径 32cm，短径 22cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床面は床面と同じ高さで，火熱を受けて赤変している。硬化は弱い。

覆土　４層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれているため，埋め戻されている。



第 57 図　第３号竪穴建物跡・出土遺物実測図

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量　　3　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量　　4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢），石器２点（鏃，敲石$_2$），剥片１点が出土している。TP ８は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期前葉に比定できる。

第３号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備　考
TP ８	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	覆土中	PL16

第４号竪穴建物跡（第 58・59 図）

位置　調査区北部のＢ２d2 区，標高 20 ｍの台地緩斜面部に位置している。

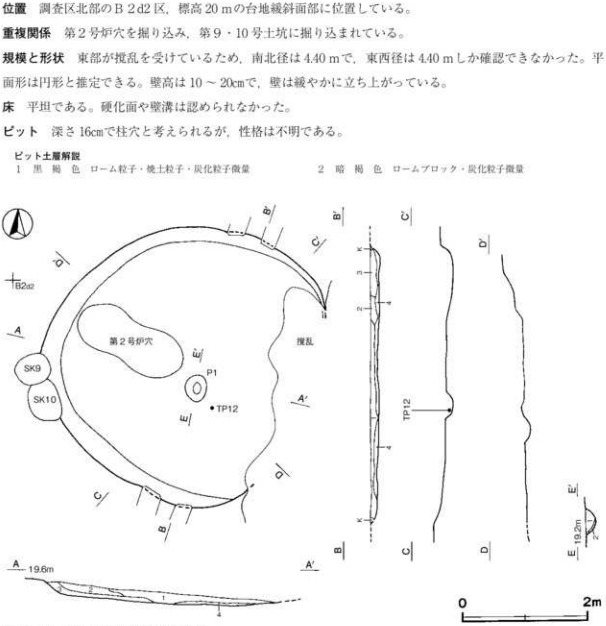
重複関係　第２号炉穴を掘り込み，第９・10 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東部が撹乱を受けているため，南北径は 4.40 ｍで，東西径は 4.40 ｍしか確認できなかった。平面形は円形と推定できる。壁高は 10 ～ 20㎝で，壁は緩やかに立ち上がっている。

床　平坦である。硬化面や壁溝は認められなかった。

ピット　深さ 16㎝で柱穴と考えられるが，性格は不明である。

ピット土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量



第 58 図　第４号竪穴建物跡実測図

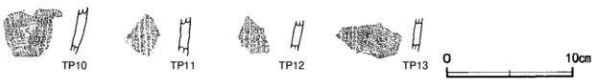
覆土　4層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片4点（深鉢），石器1点（敲石$_B$），剥片1点が出土している。TP12は中央部の床面から出土している。TP10・TP11・TP13は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期前葉に比定できる。



第59図　第4号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	撚糸文	覆土中	PL16
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	覆土中	PL16
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	床面	PL16
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	覆土中	PL16

第5号竪穴建物跡（第60図）

位置　調査区中央部のB2e1区，標高20mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第1号陥し穴，第2・7号土坑に掘り込まれている。第8号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　東部が撹乱を受けているため，北東・南西径は5.62mで，北西・南東径は4.00mしか確認できなかった。平面形は楕円形で，北東・南西径方向はN－12°－Eである。壁高は9～17cmで，壁は緩やかに立ち上がっている。

床　平坦である。硬化面や壁溝は認められなかった。

炉　2か所。いずれも中央部に付設されている。炉1は長径68cm，短径50cmで，炉2は長径44cm，短径30cmで，両者とも楕円形を呈する地床炉である。炉床面は床面と同じ高さで，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説（炉1・炉2共通）

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量

ピット　2か所。P1・P2は深さ10cm・12cmで，性格は不明である。

ピット土層解説（P1・P2共通）

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

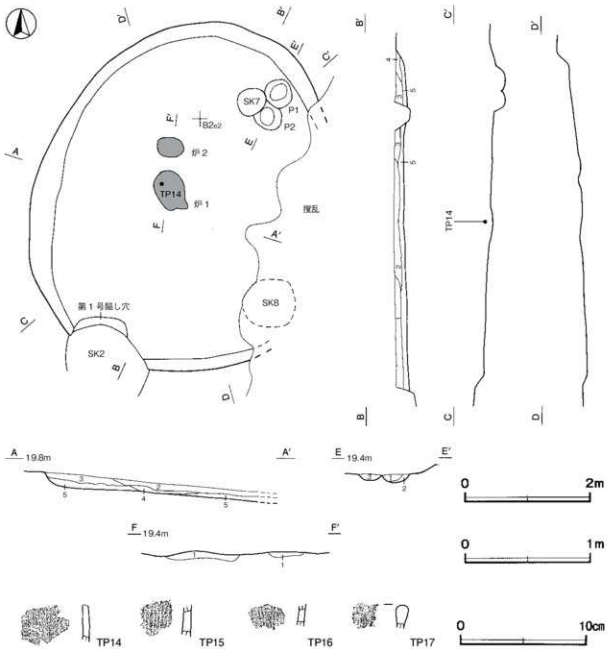
覆土　5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 10 点（深鉢），剥片 2 点が出土している。TP14 は中央部の覆土下層から出土している。TP15・TP16・TP17 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期前葉に比定できる。



第 60 図　第 5 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 5 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 60 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	撚糸文	覆土下層	PL16
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	撚糸文	覆土中	PL16
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	撚糸文	覆土中	PL16
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	撚糸文	覆土中	

第６号竪穴建物跡（第61・62図）

位置　調査区中央部のＢ２f1区，標高20ｍの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第１・２号隔し穴，第２・６号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東部が攪乱を受けているため，南北径は4.00ｍで，東西径は3.80ｍしか確認できなかった。平面形は，円形と推定できる。壁高は10～20cmで，壁は緩やかに立ち上がっている。

床　平坦である。硬化面や壁溝は認められなかった。

炉　北西部に付設されている。長径134cm，短径65cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ６cmで，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

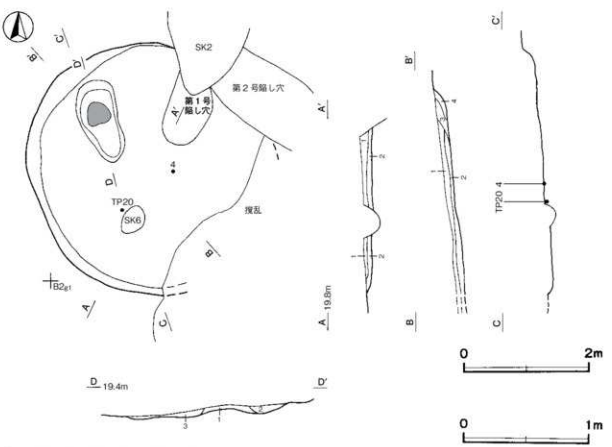
覆土　４層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片14点（深鉢），石器１点（磨石），剥片１点が出土している。４は中央部，TP20は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。５・TP19は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期前葉に比定できる。



第61図　第６号竪穴建物跡実測図

第62図　第6号竪穴建物跡出土遺物実測図

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	[26.0]	(5.3)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	撚糸文。表面磨滅	覆土下層	5％　PL15
5	縄文土器	深鉢	[15.2]	(4.5)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	撚糸文。表面磨滅	覆土中	5％　PL15

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	覆土中	PL16
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	撚糸文	覆土下層	

表5　縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長径×短径（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	ピット	炉	覆土	主な出土遺物	時期	備考
1	A 2j2	－	［楕円形］	4.00 × (3.54)	42～55	平坦	－	－	－	2	自然	縄文土器片	早期前葉	
2	B 2b2	－	［楕円形］	3.90 × (3.41)	9～34	平坦	－	－	－	1	人為	縄文土器片，軽石	早期前葉	本跡→FP 1
3	B 2c1	N－12°－W	［楕円形］	4.58 × (3.62)	10～26	平坦	－	－	－	2	人為	縄文土器片，鹿，敲石。剥片	早期前葉	
4	B 2d2	－	［円形］	4.40 × (4.40)	10～20	平坦	－	－	1	－	人為	縄文土器片，敲石。剥片	早期前葉	FP 2→本跡→SK 9・10
5	B 2e1	N－12°－E	［楕円形］	5.62 × (4.00)	9～17	平坦	－	－	2	2	人為	縄文土器片，剥片	早期前葉	本跡→TP 1，SK 2・7・SK 8と新旧不明
6	B 2f1	－	［円形］	4.00 × (3.80)	10～20	平坦	－	－	－	1	自然	縄文土器片，磨石，剥片	早期前葉	本跡→TP 1・2，SK 2・6

(2)　陥し穴

第1号陥し穴（第63図）

位置　調査区中央部のB 2f1区，標高20 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第5・6号竪穴建物跡を掘り込み，第2号土坑に掘り込まれている。第2号陥し穴とも重複しているが，新旧関係は不明である。

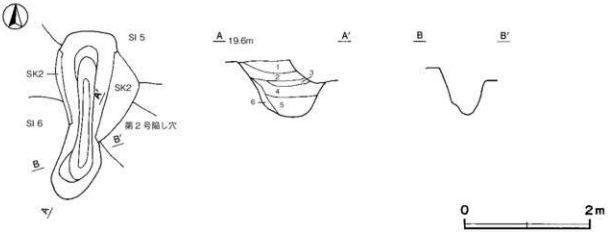
規模と形状　長径2.74 m，短径0.90 mの楕円形で，長径方向はN－5°－Eである。深さは88cmで，底面は幅15cmほどである。短径方向の断面はV字状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　6層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

所見　時期は，遺物が出土していないため明確ではないが，規模と形状から縄文時代と考えられる。



第63図　第１号陥し穴実測図

第２号陥し穴（第64図）

位置　調査区中央部のＢ２f1区，標高20ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第６号竪穴建物跡を掘り込み，第２号土坑に掘り込まれている。第１号陥し穴とも重複しているが，新旧関係は不明である。

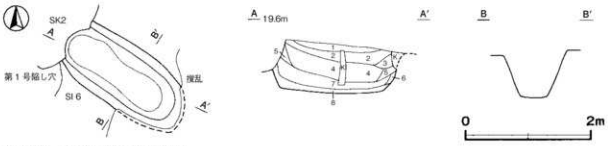
規模と形状　北西部が第２号土坑に掘り込まれ，南東部が攪乱を受けているため，北西・南東径は2.20ｍで，北東・南西径は1.00ｍしか確認できなかった。平面形は楕円形で，北西・南東径方向はＮ－54°－Ｗである。深さは78cmで，底面は幅40cmほどである。短径方向の断面は逆台形で，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　８層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

所見　時期は，遺物が出土していないため明確ではないが，規模と形状から縄文時代と考えられる。



第64図　第２号陥し穴実測図

表６　縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	Ｂ２f1	Ｎ－5°－Ｅ	楕円形	274 × 0.90	88	皿状	外傾	自然		SI５・６→本跡→SK２，TP２と新旧不明
2	Ｂ２f1	Ｎ－54°－Ｗ	〔楕円形〕	〔2.20〕× 1.00	78	平坦	緩斜	自然		SI６→本跡→SK２ TP１と新旧不明

(3) 炉穴

第１号炉穴（第65図）

位置　調査区中央部のＢ２b2区，標高20ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第２号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北東部が撹乱を受けているため，東西径は1.14ｍで，南北径は0.86ｍしか確認できなかった。平面形は楕円形で，東西径方向はＮ－90°－Ｅである。東部に火焚部，西部に足場が付設されている。火焚部の深さは５㎝で，平坦である。火熱を受けて赤変しているが，硬化は弱い。足場は深さ15㎝で，火焚部より10㎝掘りくぼめられている。壁は外傾して立ち上がっている。

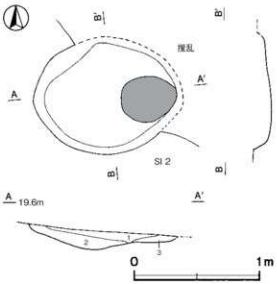
覆土　２層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。第３層は火焚部で，使用している間に堆積した層である。

土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
2　暗　褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片11点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため，図示できない。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

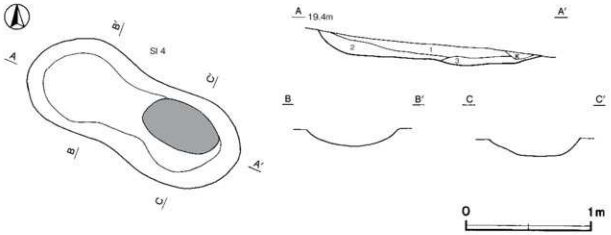


第65図　第１号炉穴実測図

第２号炉穴（第66図）

位置　調査区中央部のＢ２d2区，標高20ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第４号竪穴建物に掘り込まれている。



第66図　第２号炉穴実測図

規模と形状　長径 1.80 m，短径 0.78 m の中央部が狭い楕円形で，長径方向はN－63°－Wである。南東部に火焚部，北西部に足場が付設されている。火焚部の深さは 14cmで，平坦である。火熱を受けて赤変しているが，硬化は弱い。足場は深さ 15cmで，火焚部に向かってやや下っている。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。第３層は火焚部で，使用している間に堆積した層である。

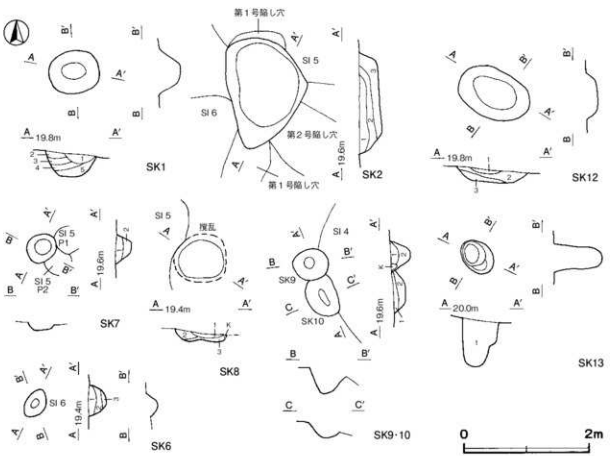
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量

所見　時期は，伴う遺物は出土していないが，早期前葉に比定できる第４号竪穴建物に掘り込まれているためそれ以前で，ほぼ同時期と考えられる。

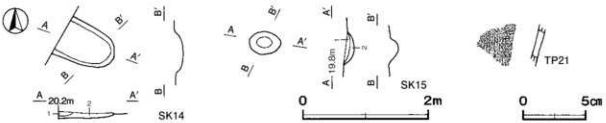
表7　縄文時代炉穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	B 2 i2	N－90°－E	〔楕円形〕	(1.14) × (0.86)	5～15	平坦	外傾	自然	縄文土器片	SI 2→本跡
2	B 2 d2	N－63°－W	楕円形	1.80 × 0.78	14～18	平坦	緩斜	自然		本跡→SI 4

(4)　土坑



第 67 図　縄文時代土坑実測図



第68図　縄文時代土坑・出土遺物実測図

第1号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

第2号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第6号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

第7号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量

第8号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第9号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第10号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第12号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

第13号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第14号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第15号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

縄文時代土坑出土遺物観察表（第68図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文様の特徴ほか	出土位置	備　考
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	撚糸文	SK14	PL16

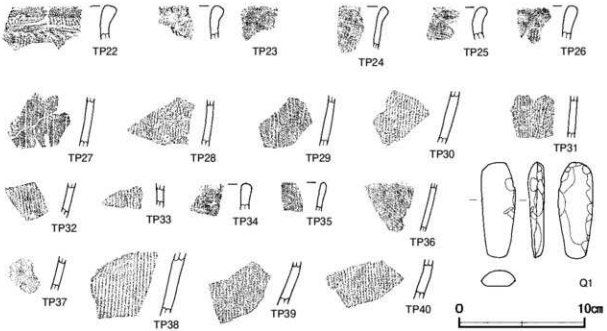
表8　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	B 2d1	N－88°－E	楕円形	0.82 × 0.70	36	平坦	外傾	人為		
2	B 2e1	N－15°－W	不整楕円形	1.75 × 1.28	32	平坦	外傾	自然		SI 5・6，TP 1・2→本跡
6	B 2f1	N－25°－E	楕円形	0.50 × 0.32	30	皿状	外傾	自然		SI 6→本跡
7	B 2d2	N－34°－E	楕円形	0.50 × 0.44	24	平坦	外傾	自然	石器	SI 5→本跡
8	B 2e2	N－50°－E	［楕円形］	(0.86) × (0.78)	16	平坦	外傾	自然		SI 5と新旧不明
9	B 2d2	N－73°－E	楕円形	0.56 × 0.48	35	皿状	外傾	自然		SI 4，SK10→本跡
10	B 2d2	N－22°－W	［楕円形］	(0.60) × 0.50	20	平坦	緩斜	自然		SI 4→本跡→SK 9
12	B 1f9	N－62°－W	楕円形	1.16 × 0.75	19	平坦	緩斜	人為		
13	B 1e0	N－40°－E	楕円形	0.58 × 0.45	76	皿状	直立	人為		
14	B 1d9	N－65°－W	［楕円形］	(0.90) × 0.67	14	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	
15	B 2e1	N－90°	楕円形	0.54 × 0.36	14	皿状	緩斜	自然		

2　その他の遺構と遺物

遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について実測図及び観察表を掲載する。



第69図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	口唇部の横方向へ施文　単節縄文	表土	PL16
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口唇部直下の指頭圧痕文　単節縄文	表土	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口唇部直下の指頭圧痕文　単節縄文	表土	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	口唇部の横方向へ施文　単節縄文	表土	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	撚糸文	表土	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	撚糸文	表土	PL16
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	単節縄文	表土	PL16
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	撚糸文	表土	PL16
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	単節縄文	表土	PL16
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐	撚糸文	表土	PL16
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	単節縄文	表土	
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	単節縄文	表土	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	撚糸文	表土	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	撚糸文	表土	
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	異方向へ施文	表土	
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤褐	異方向へ施文	表土	
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	単節縄文	表土	PL16
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	単節縄文	表土	PL16
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	単節縄文	表土	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	7.6	2.8	1.3	33.83	凝灰岩	全面研磨　加工による両側面剥離	表土	PL16

第4節 ま　と　め

1　はじめに

今回の調査で，縄文時代の竪穴建物跡6棟，陥し穴2基，炉穴2基，土坑11基を確認した。当遺跡は，縄文時代早期の集落跡の一部であったことが明らかになった。ここでは，古河市域（旧三和町）の縄文時代早期の遺跡についてふれ，当遺跡の集落の様子について若干の考察を加えてまとめとしたい。

2　茨城県域及び古河市域（旧三和町）の縄文時代早期の遺跡

茨城県域における縄文早期の集落跡の発掘調査例は，鹿嶋市伏見遺跡，守谷市今城遺跡，花輪台貝塚，日立市蓮下遺跡，笠間市石山神遺跡などが挙げられる。古河市域（旧三和町）においては，「三和町史資料編原始・古代・中世」によると，把握している縄文時代の遺跡は61遺跡で，縄文早期に位置づけられる遺跡は，北下山遺跡，下片田遺跡，三ツ塚遺跡，八幡台遺跡など22遺跡とされている。いずれの遺跡も土器片が採集されたもので，発掘調査が行われたケースはほとんど見られない。

3　集落の様子

(1)　各遺構の時期について

当遺跡から出土した識別可能な土器片は，撚糸文系土器（主に稲荷台式土器）である。第1号竪穴建物跡は，出土土器の様相から早期前葉の稲荷台式期の住居である。第2～6号竪穴建物跡の時期も出土土器から第1号竪穴建物跡と同時期で早期前葉の稲荷台式期ととらえることができる。表土からは，早期前葉の井草式期と思われる土器片が出土している。第1号炉穴からは細片であるが，茅山式期の土器片が出土しており，早期後葉と判断できる。

(2)　竪穴建物跡の形状について

前述したように当遺跡で確認された竪穴建物跡は，縄文時代早期前葉のものが6棟である。6棟の竪穴建物跡は調査区中央部の標高19～20mの緩斜面に近接して並んでいる。ここでは，6棟の竪穴建物跡について平面形，長径方向，規模，柱穴，炉などの特徴と配置を比較していきたい。まず，平面形は撹乱を受けているため推定形を含むが，円形や楕円形を呈しており，形状におおむね統一性がみられる。長径方向は，第3号竪穴建物跡が西へ12°振れているのに対し，第5号竪穴建物跡は東へ12°振れている。それ以外は推定不可能で，長径方向に共通性を見出すことが難しい。規模は，長径が3.90～5.62mと差があり，短径は現存値なので推定になる。第5号竪穴建物跡が最大規模とみられ，それ以外はほぼ同程度と思われる。ピットは第4号竪穴建物跡に1か所，第5号竪穴建物跡に2か所確認できるが，主柱穴と設定して良いかは不明である。竪穴建物跡の位置関係は，互いに近接しているため，6棟が同時に存在したというよりは，若干時期差があると考えたい。竪穴建物跡が等間隔に配置されていたと仮定すると第1・3・5号竪穴建物跡から第2・4・6号竪穴建物跡にそれぞれ建て替えられたとみることが可能である。

(3)　屋内炉について

早期前葉（稲荷台式期）の竪穴建物跡5棟で屋内炉を確認した。第1号竪穴建物跡の炉は中央部北西寄

表9　縄文時代竪穴建物跡一覧表

遺構名	主軸方向	平面形	規模	内部施設			時期	
			長径×短径（m）	主柱穴	ピット	炉		
SI 1	－	［楕円形］	4.00 × （3.54）	－	－	2	早期前葉	稲荷台式期
SI 2	－	［楕円形］	3.90 × （3.41）	－	－	1	早期前葉	稲荷台式期
SI 3	N－12°－W	［楕円形］	4.58 × （3.62）	－	－	2	早期前葉	稲荷台式期
SI 4	－	［円形］	4.40 × （4.40）	－	1	－	早期前葉	稲荷台式期
SI 5	N－12°－E	［楕円形］	5.62 × （4.00）	－	2	2	早期前葉	稲荷台式期
SI 6	－	［円形］	4.00 × （3.80）	－	－	1	早期前葉	稲荷台式期

りに2か所で，わずかな掘り込みが見られる楕円形の地床炉である。第2号竪穴建物跡の炉は西寄りに1か所で，楕円形を呈し床面と同じ高さが炉床である。第3号竪穴建物跡の炉は中央部北寄りに2か所で，楕円形を呈し床面と同じ高さが炉床である。第5号竪穴建物跡の炉は中央部に2か所で，楕円形を呈し床面と同じ高さが炉床である。第6号竪穴建物跡の炉は北西部に1か所で，わずかな掘り込みが見られる楕円形の地床炉である。第4号竪穴建物跡を除く5棟に1～2基の炉が付設されている。第6号竪穴建物跡の炉は，北西部の壁近くに配置されており，柱穴がないとはいえ上屋構造と炉の位置関係に問題があるように思える。

(4)　遺跡全体について

以上のことから，竪穴建物跡は標高19～20 mの緩斜面に並んで配置されており，配置から西方向の台地平坦部に向かって集落の広がりが想定できる。時期は早期前葉（稲荷台式期）である。第4・5号竪穴建物跡は主柱穴を有している可能性もあるが，基本的には主柱穴を有していない。また，6棟の竪穴建物跡のうち5棟が屋内炉を有するものである。

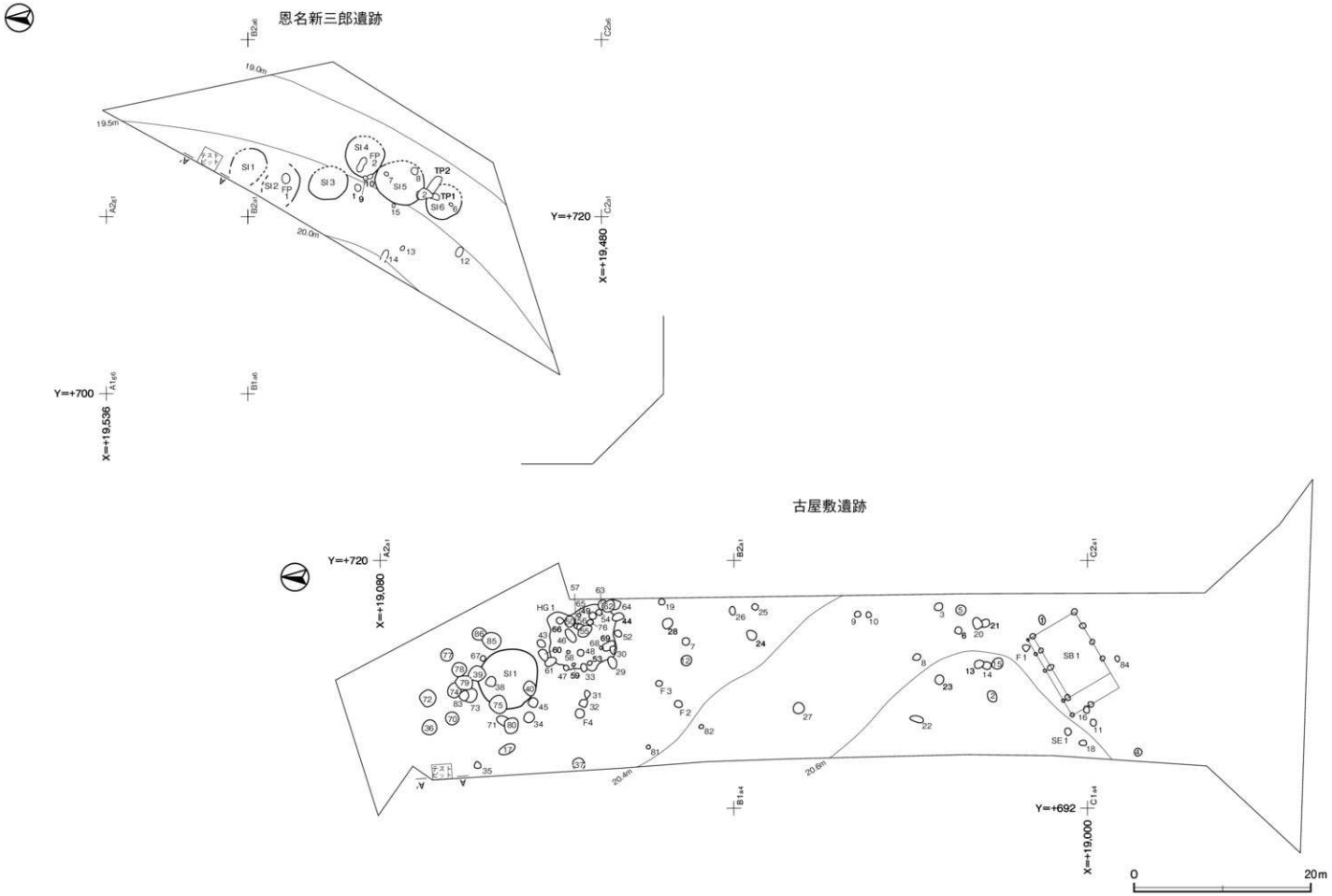
4　おわりに

当遺跡は，断続的ではあるが縄文時代早期に人々が生活を営んでいたことが分かった。井草式期に人々が住み始め，空白の期間（夏島式期。）もあるが，稲荷台式期に再び集落が形成されたとみられる。茅山式期の土器片が出土している炉穴が存在することから，少なくとも早期後葉までは生活が営まれていたと考えられる。

以上のことから，当地域で縄文時代早期の集落がどのように形成されていたかを知る貴重な手がかりの1つになる。また，屋内炉を有する縄文時代早期の住居跡は，茨城県域で例が少なく資料的価値も高い。今回の報告が当地域の歴史並びに県域の縄文時代早期の歴史解明の一助となれば幸いである。

参考文献

・三和町史編さん委員会『三和町史　資料編　原始・古代・中世』　1992年10月
・財団法人茨城県教育財団『茨城県における縄文時代早期の住居跡形態について』『研究ノート』創刊号　1992年7月
・上野修生『茨城県立総合教育研修センター（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書　石山神遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第62集　1990年9月
・佐藤正好・中沢時宗・和田雄次『南守谷地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅷ　1981年3月
・原田昌幸『日本の美術8　縄文土器　草創期・早期』至文堂　2007年8月
・宮崎朝雄『縄文早期撚糸文文化の竪穴住居について　－関東地方における初期定住化－』『縄文時代』第15号　縄文時代文化研究会　2004年5月



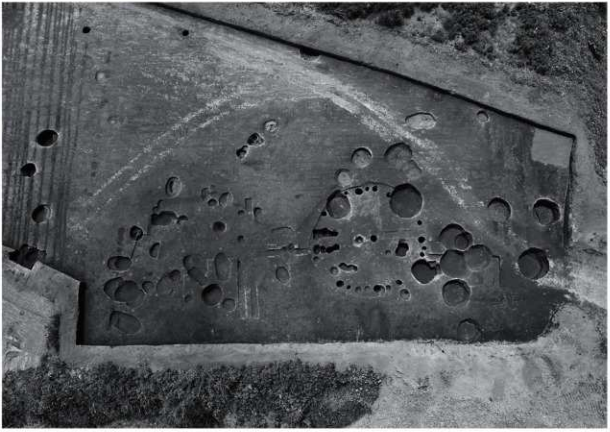
第70図　古屋敷遺跡・恩名新三郎遺跡遺構全体図

写　真　図　版

古　屋　敷　遺　跡
恩名新三郎遺跡

恩名新三郎遺跡近景（南から）

古屋敷遺跡遠景（南東から）



古屋敷遺跡北部（東から）

第１号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第　１　号
竪穴建物跡（炉）
完　掘　状　況

第２号炉跡
完　掘　状　況

第 3 号 炉 跡
完 掘 状 況

第 4 号 炉 跡
完 掘 状 況

第 12 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 19 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 21 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第 38 号 土 坑
完 掘 状 況

第39号土坑
完掘状況

第44・62～64号
土坑
遺物出土状況

第73・74・79・83号
土坑
完掘状況

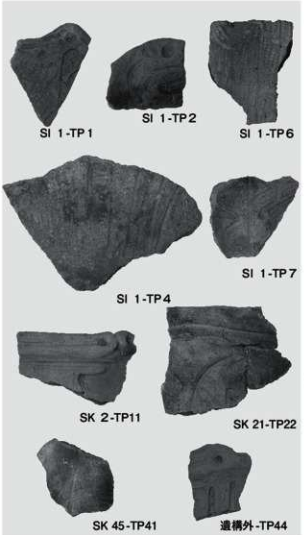
第　1　号
掘立柱建物跡
確認状況

第1号井戸跡
完掘状況

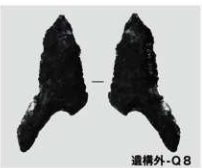
第1号遺物包含層
土坑群
完掘状況

第１号竪穴建物跡，第１号掘立柱建物跡，第１号井戸跡，第９・12号土坑出土土器

第１号竪穴建物跡，第19・21・23・49号土坑出土土器



第１号竪穴建物跡，第２・15・21・34・39・45・55・62号土坑，遺構外出土土器



第1号竪穴建物跡，第1・39・49・62・84号土坑，遺構外出土遺物

恩名新三郎遺跡遠景（北から）

恩名新三郎遺跡全景（東から）

第1号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第２号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第３号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第４号竪穴建物跡
完　掘　状　況

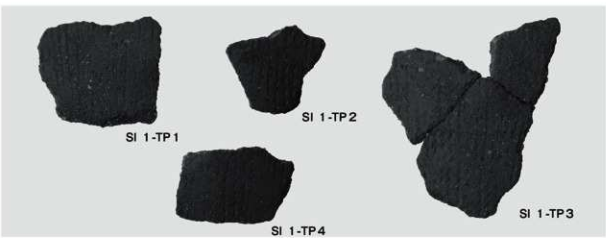
第５号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第６号竪穴建物跡
完　掘　状　況

第１・２号陥し穴
完　掘　状　況

第　１　号　炉　穴
完　掘　状　況

第　２　号　炉　穴
完　掘　状　況



第１・６号竪穴建物跡出土土器

第２～６号竪穴建物跡，第14号土坑，遺構外出土遺物

抄　　録

ふりがな	ふるやしきいせき　　おんなしんざぶろういせき
書　　名	古屋敷遺跡　　恩名新三郎遺跡
副　書　名	県道尾崎境線バイパス事業地内埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第388集
著　者　名	長洲正博
編 集 機 関	公益財団法人茨城県教育財団
所　在　地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発　行　日	2014（平成26）年3月12日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
古屋敷遺跡（ふるやしきいせき）	茨城県（いばらきけん）古河市（こがし）恩名（おんな）字古屋敷1276－2番地ほか	08204－543178	36度10分16秒	139度50分28秒	20～21 m	20120401～20120531	1,856 ㎡	県道尾崎境線バイパス事業に伴う事前調査
恩名新三郎遺跡（おんなしんざぶろういせき）	茨城県（いばらきけん）古河市（こがし）恩名（おんな）字新三郎1076番地ほか	08204－543179	36度10分30秒	139度50分27秒	19～20 m	20120401～20120531	689 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古屋敷遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡　1棟 炉跡　4基 土坑　70基 遺物包含層　1か所	縄文土器（深鉢・注口土器），石器（鏃・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石），剥片	
		江戸時代	掘立柱建物跡　1棟 井戸跡　1基	土師質土器（小皿），陶器（香炉），鉄製品（不明）	
		時期不明	土坑　13基		
恩名新三郎遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡　6棟 陥し穴　2基 炉穴　2基 土坑　11基	縄文土器（深鉢），石器（鏃・磨製石斧・磨石），剥片	

要　　約	古屋敷遺跡は，縄文時代後期の集落跡の一部で，後期堀之内1式期の土器が多数出土している。江戸時代には屋敷地として利用されていた。 恩名新三郎遺跡は，縄文時代早期の集落跡の一部で，撚糸文系土器が出土している。

仕　様

編　集	ＯＳ	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack1
	レイアウト	Adobe InDesign CS５
	図版作成	Adobe Illustrator CS５
	写真調整	Adobe Photoshop CS５
	Scanning	６×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組　版	OpenType13級リュウミンPro・L基本 Adobe InDesign CS５	
印　刷	オフセット印刷	
写　真	スクリーン線数　モノクロ175線	

・印刷所へは，Adobe InDesign CS５でレイアウトしたものを入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第388集

古屋敷遺跡
恩名新三郎遺跡

県道尾崎境線バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成26（2014）年　3月10日　印刷
平成26（2014）年　3月12日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http://www.ibaraki-maibun.org

印刷　株式会社あけぼの印刷社
〒310－0804　水戸市白梅１丁目２番11号
TEL　029－227－5505